

日本の傷病別平均受療期間の推定：1999～2014 年

別府志海・高橋重郷

1. はじめに

日本の死亡率は戦後になって大きく低下し、1970 年代後半から世界の中で長寿命国の一つとなっている。それに加えて、特に女性の平均寿命は最長であるにもかかわらず、寿命改善のテンポには鈍化の傾向がみられない。また国連の推計によれば、2015 年の人口が 100 万人を超える国の中で、日本の平均寿命は 2010～15 年の男性が 80.80 年で長寿順位でみて第 7 位、女性は 87.28 年で第 2 位である。さらに、2095～100 年の男性の推計値でみても 90.49 年で第 16 位、女性は 96.99 年で第 2 位（United Nations 2016；国立社会保障・人口問題研究所 2016）と推定されており、世界的にみても日本の死亡率水準は極めて低い水準が持続していくものとみられている。

こうした背景から現代の日本社会では、単に死亡率の低下を目指し長寿化を実現するだけでなく健康的に生活すること、換言すれば健康という「生存の質」（小泉 1985）を高めることが国民の重大な関心事となってきている。健康水準に関する先行研究として、小泉（1985）は厚生労働省の『患者調査』から受療率、また『国民生活基礎調査』から有病率を用いた「健康・生存数曲線」による分析を試みている。また齋藤（2001）は厚生労働省『国民生活基礎調査』、『社会福祉施設等調査報告』等をもとに 1990 年代の健康生命表を作成し、健康期間、施設等への入所期間、要介護期間等の分析を行っている。一方、山口・梯（2001）は高齢者の平均自立期間に影響を与える要因分析を行い、平均自立期間は要介護期間との関連は弱く、むしろ平均余命と共通した性質が強いこと等を示している。こうした研究ベースとは別に、健康政策施行の一環として厚生労働省も「健康寿命」を公表するようになった。

これらの先行研究を参考に、筆者らは国立社会保障・人口問題研究所の研究プロジェクト『わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究（平成 23～25 年度）』から、患者調査の傷病分類に基づいて健康構造に焦点を当てた分析を試みた（別府・高橋 2014, 2015a, 2015b）。これらの分析からは、時系列で見ると平均余命が伸びている中で平均受療期間は短縮傾向にあること、循環器系の疾患は男女とも 3 割以上を占めており、さらに、高年齢ほど同疾患の占める割合が高いこと等が示された。

今回の分析では新たに 2014 年を加え、近年の健康構造ならびに健康状態別の生存期間における傾向を把握し、将来の死亡動向に関する知見を得ることを目的とする。分析手法には、健康状態別の人口割合から健康生命表を作成することが可能な Sullivan 法を用い、健康状態別の平均生存期間を推定する。

なお、この研究で用いている患者調査は世界保健機関（WHO）の「国際疾病、傷害および死因統計分類（ICD）」に基づき分類された疾病の状態に関するデータが得られる。この ICD は約 10 年ごとに改訂されているが、いずれの改定も組み替えによる比較が出来

ないため、改訂の前後では分類間の時系列比較が行えない。そこで本研究では「第10回修正国際疾病、傷害および死因統計分類（ICD-10）」に切り替わった後の1999～2014年について分析を行うこととする。

2. 受療率の年齢パターン

データ分析に入る前に、健康についての定義とデータの検討を行いたい。WHOによれば、健康とは「単に病気でなく、または弱っていないという状態ではなく、肉体的、精神的、そして社会的に、すべてが良好な状態」とされている。しかしながら、この定義を用いて国民全体の健康度を客観的に測定することは難しい。

健康の主観的な面を重視する研究では厚生労働省『国民生活基礎調査』の健康状態に関する質問項目を用いて分析する方法がある（小泉1985；齋藤2001；橋本2012）。しかし同調査では「施設」が調査対象となっていないなど、分析上の課題もある（齋藤2001）。ところで同省『患者調査』は、全国の医療施設を利用する患者を対象とした調査であり、入院・外来の種別、傷病別の患者数を得ることが出来る¹⁾。この調査は、医療機関に受診するという客観的事実を扱っていること、施設等入所者を含む全国民が対象であること等の利点を有している。そのため本研究では、健康構造を示す統計として『患者調査』における患者数を用いることとする。なお、同調査による患者数には調査日は受診しなかった「継続的に医療を受けている者」を含まないため、そのままでは日本の健康構造を示さない。そこで本研究では、これらの患者を含めた推計値として同調査の報告書が扱っている「総患者数」を用い、分析を行うこととする²⁾。

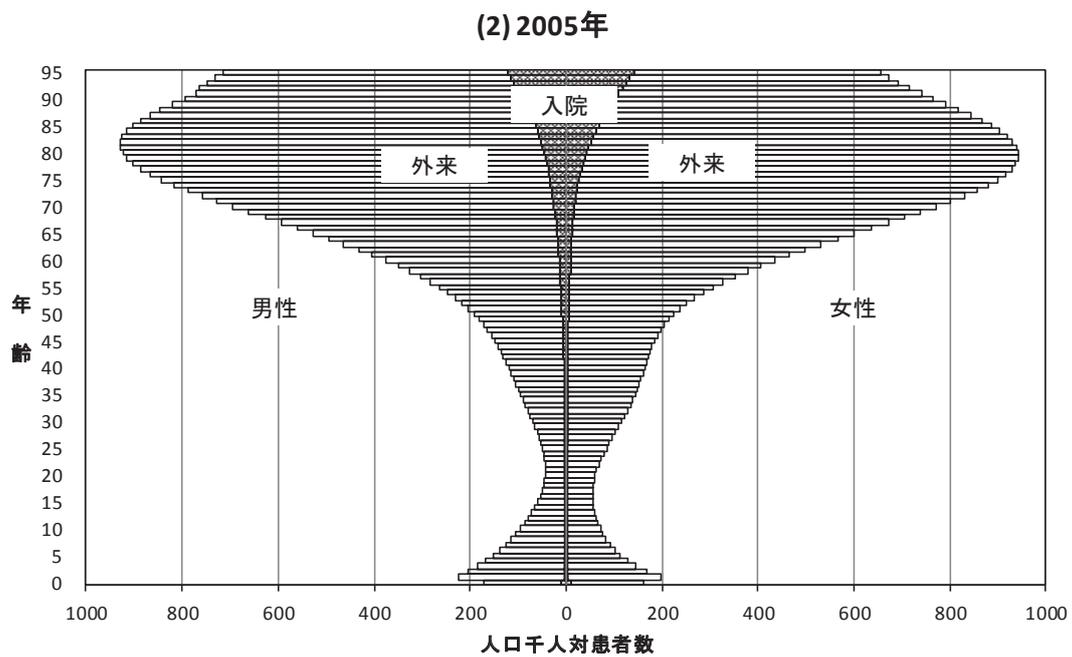
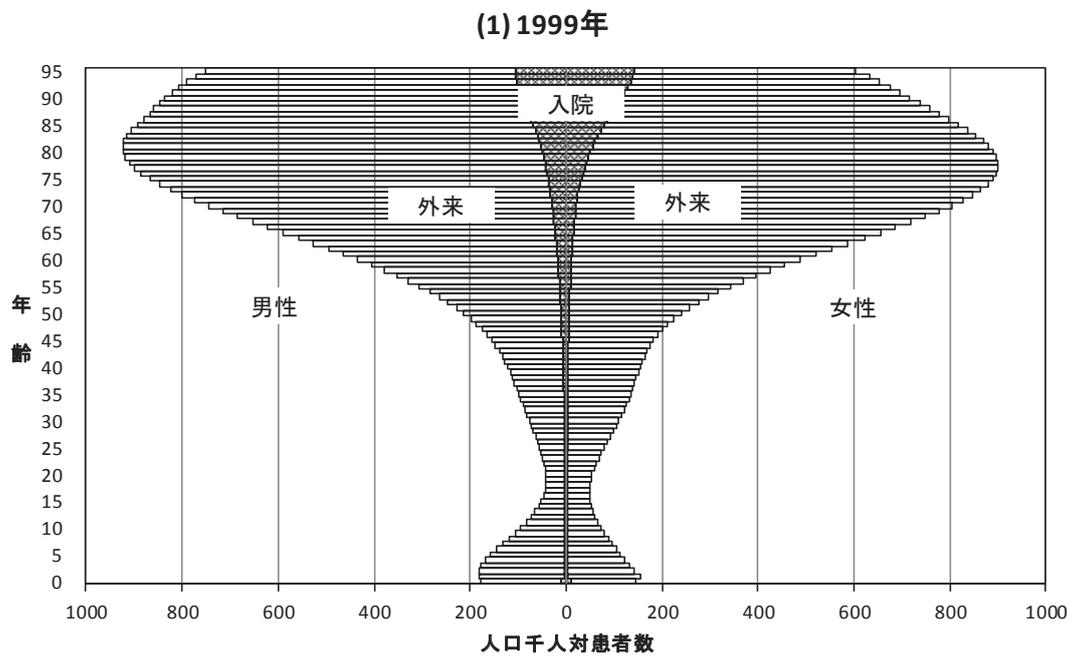
ところで、この研究では健康を健康状態と受療状態の二区分で扱うが、本来の健康状態と受療状態は単一方向への状態変化ではなく、時間軸や年齢軸の経過とともに絶えず状態間を遷移していくものである。さらに、健康状態と受療状態から人の死亡が発生するものであり、健康状態から受療状態、そして死亡へは連続的な変化であることに留意する必要がある。また、患者調査による患者数・総患者数には、検査のために受診した場合も含まれる可能性がある反面、罹患していても医療機関を受診していなければ含まれない³⁾。本分析は、このような影響を含めた分析である点にご留意頂きたい。

¹⁾ 『患者調査』は、全国の医療施設を利用する患者を対象とし、層化無作為により抽出した医療施設における患者を客体とした調査である。1984年以降では3年ごとに調査が行われており、調査年10月中旬の3日間のうち医療施設ごとに定める1日を調査日とし、当日に病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者について、入院および外来患者の受療状況等を調査している。なお、調査から得られる患者数は、いずれも推計値である。

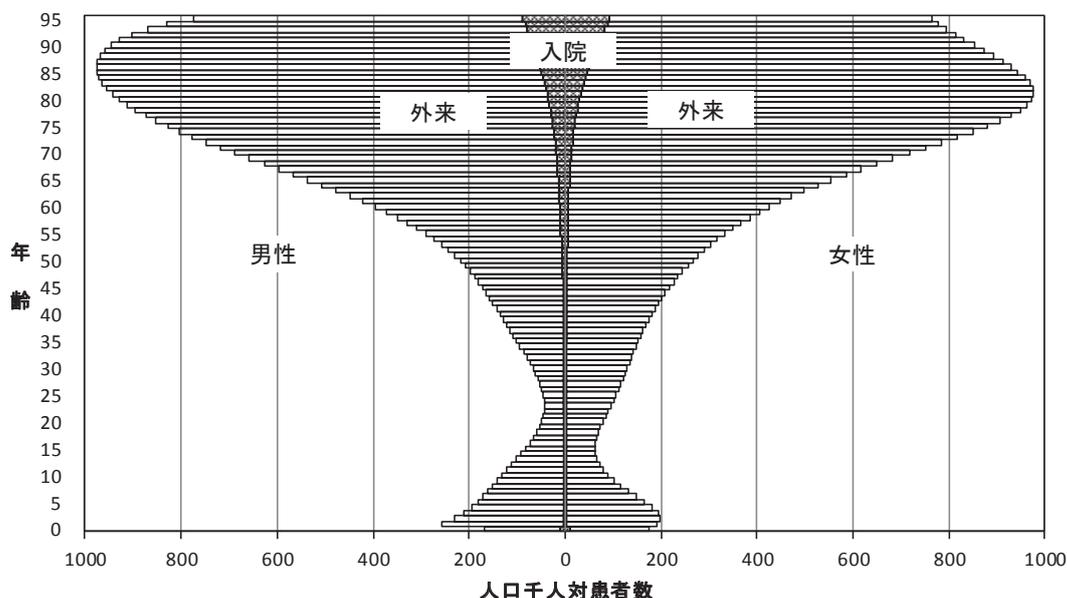
²⁾ 『患者調査』における総患者数は次式により推計されており、本研究でも同様に算出している。
総患者数＝入院患者数＋初診外来患者数＋再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6/7）

³⁾ 本研究では、傷病分類における「妊娠、分娩及び産じょく」や「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」等は健康状態であると考え、受療者から除外して算出している。

図1. 患者調査からモデル化した入院・外来別受療率：1999, 2005, 2014年



(3) 2014年



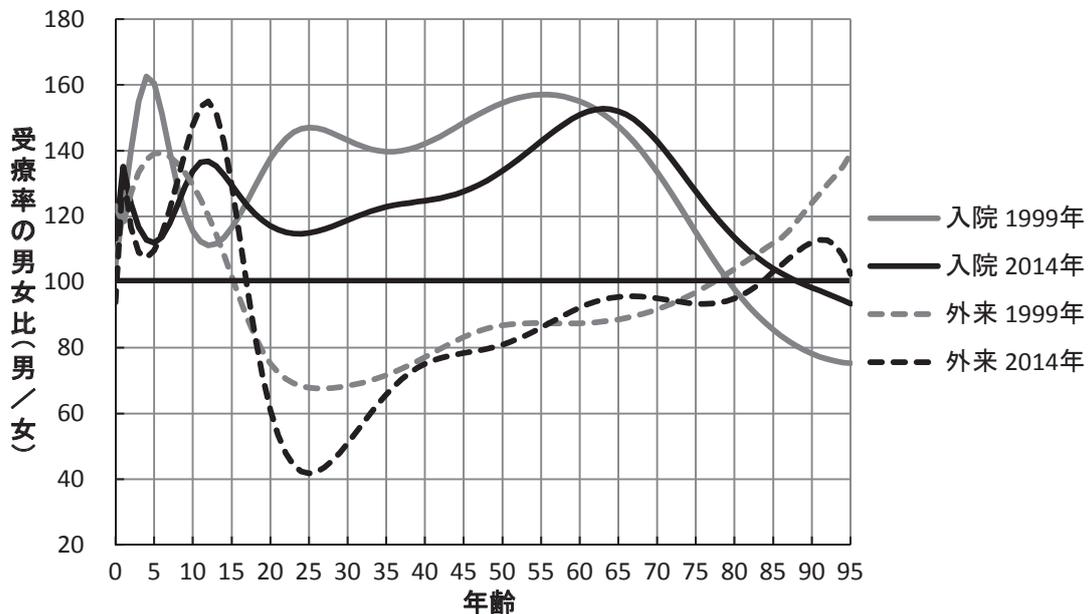
厚生労働省『患者調査』における「総患者数」に基づきモデル化した受療率による。

さて、健康状態を表す指標として、年齢別人口 1,000 あたりの患者数、すなわち受療率を図 1 に、年齢別受療率の男女比を図 2 に示す⁴⁾。はじめに図 1 をみると、いずれの年次も受療率は 10 歳未満では 200%ほどあるが、10 歳代～50 歳頃までは 200%以下である。特に 10 歳代半ばから 20 歳代半ばまでは 100%を下回っている。そして 50 歳を過ぎる頃から急激に高くなるものの、80 歳を超えるとむしろ低下する傾向がいずれの年次にも見られる。

次に、この受療率を入院・外来別にみよう。入院の受療率は、いずれの年次においても男女とも、0 歳から 50 歳前後までは 10 パーセント以下の低い水準にあり、60 歳代から徐々に高くなっている。1999 年と 2014 年で比較すると、入院の受療率はほぼすべての年齢で低下している。その低下幅が最も大きい年齢は、男女とも 90 歳代前半である。特に高年齢における受療率の水準を 1999 年と 2014 年で比較すると、80 歳時点においては 1999 年の男性は 49%、女性は 50%であったのが、2014 年の男性は 35%、女性は 31%へ、90 歳時点においても 1999 年の男性は 91%、女性は 116%であったのが、2014 年の男性は 68%、女性は 69%へと低下しており、高年齢においても受療率の顕著な低下傾向が観察される。

⁴⁾ ここで示した率は統計法第32条の規定に基づく個票データの二次利用により再集計を行った上で、男女・年齢各歳データの偶然変動を平滑化したモデルデータのものである（提供通知文書番号：平成28年12月27日付政統発第1227第1号）。男女・年齢別の受療率数値モデルは、多項式回帰ならびに年齢各歳データのカーブ・フィッティングによって近似化している。『患者調査』による観察値とモデル値との比較については参考図 1～3 に掲げている。

図2. 患者調査からモデル化した入院・外来別受療率の男女比：1999年，2014年



厚生労働省『患者調査』における「総患者数」に基づきモデル化した受療率による。

一方、外来の受療率も高年齢になるほど上昇するが、男女とも80歳前後を過ぎると逆に低下に転じている⁵⁾。1999年と2014年の外来受療率を比較すると、男女とも年齢によって増減がある。0歳前後から50歳代半ばまではむしろ受療率が若干上昇しており、50歳代後半から70歳代半ばまでは低下するものの、70歳代後半からまた上昇へ転じている。

ここで入院・外来別に受療率の水準を男女で比較すると(図2)、入院の場合は1999年が79歳まで、2014年が88歳まで男性の受療率が上回っており、80歳以下での入院は男性が多い傾向が続いている。外来の場合は、1999年は0～15歳まで、2014年は0～16歳まで男性の受療率が上回っている。それ以上では、1999年が77歳まで、2014年が83歳まで女性の受療率が上回っているが、さらに高年齢では再び男性の受療率が女性を上回る状態となる。このことから、特に20歳以上では女性超過が大きく進んでいることがわかる。

以上の結果は、次のようにまとめられるだろう。第一に、高年齢における受療率の年齢パターンは、時系列比較すると低下傾向がみられた。こうした変化は受療率の高年齢方向へのシフトとも解せるだろう。第二に、入院の受療率は年齢とともに上昇する一方で、外来受療率は80歳以上になると逆に低下していた。なお、80歳以上において外来の受療率低下を補うほど入院の受療率は上昇していないことから、こうした高年齢の中でもより高齢の年齢層では入院も通院もしない人が長生きしやすいことが示唆される。

⁵⁾ こうした高年齢における外来の受療率の低下傾向は、厚生労働省『国民生活基礎調査』においても同様に観察される。

3. 平均受療期間の動向

3-1) 平均健康期間・平均受療期間の動向

前章では受療状態を入院と外来に大別し、それぞれの受療率の年齢パターンについて概観した。本章では、こうした受療のパターンから導き出される通院期間あるいは入院期間を除いた健康状態で過ごす期間すなわち平均健康期間と、外来や入院により受療状態で過ごす期間すなわち平均受療期間について分析したい。この平均健康期間および平均受療期間を算出するためには、健康生命表を作成する必要がある。健康生命表の作成方法にはいくつかの手法が存在するが、この研究では既存の生命表と健康状態に関する統計から比較的簡便に作成が可能な Sullivan 法を用いて作成することとしたい。この方法は、別途作成された生命表と健康状態別人口割合から健康状態別の定常人口および余命を算出するものである (Sullivan 1971 ; 齋藤 2001)。なお、この研究では入院も通院もしていない状態を「健康」として定義し用いることとする。したがって、平均健康期間とはある年齢から死亡するまでの間 (=平均余命) に入院も通院もしていない平均年数を意味し、平均受療期間は同じく傷病により通院または入院している平均年数を示す。

前章で示した各受療率と、社人研が作成・公開している日本版死亡データベース (JMD) による各年の生命表を用い、前述の Sullivan 法により入院および外来別の平均受療期間を求めた結果を表 1 に示す⁶⁾。表 1 をみると、男女とも、平均余命は近年になるにつれてどの年齢においても延伸しているのに対し、平均健康期間は 2008 年まで伸びていたものの、2011 年からは若干ながら短縮する傾向にある。この一方で平均受療期間は、男女とも 2011 年までは概ね横這いであったが、2014 年にかけて上昇傾向に転じている。ここで高齢期の健康状態に着目しよう。はじめに 65 歳以上について、平均健康期間と平均受療期間の変化幅を比べると、男性ではいずれの年齢も平均健康期間の伸びが平均受療期間のそれを上回っている。しかしながら女性をみると、65 歳では平均健康期間の伸びが平均受療期間のそれを上回っているものの、80 歳以上では平均受療期間の伸びが平均健康期間の伸びを上回っている。こうした平均健康期間と平均受療期間の伸長幅から、80 歳以上といった高年齢の女性を除き、人口全体としての健康度は改善されてきていると言えるだろう。なお、平均健康期間を男女で比較すると、65 歳以上では女性が若干長くなるものの、40 歳以下では男女ともほぼ同じ長さである。

⁶⁾ 厚生労働省『国民生活基礎調査』および『社会福祉施設等調査報告』等をもとに Sullivan 法により 1990 年代の健康生命表を作成している齋藤 (2001) と比較すると、今回作成した平均健康期間は全体的に短くなっている。この理由としては、齋藤 (2001) が調査の対象者の自己申告に基づくこと、施設入所を健康状態とは別途扱っていることが考えられる。

表 1. 平均余命, 平均健康期間ならびに平均受療期間: 1999~2014 年

(年)

年齢	平均余命						平均健康期間						平均受療期間					
	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年
男性																		
0	77.16	79.24	78.51	79.24	79.44	80.50	55.68	58.65	57.14	58.20	57.88	56.36	21.48	20.59	21.37	21.04	21.56	24.14
20	57.80	59.70	59.02	59.70	59.93	60.89	38.27	40.85	39.74	40.72	40.77	39.38	19.52	18.85	19.29	18.99	19.16	21.52
40	38.62	40.44	39.81	40.44	40.69	41.56	20.28	22.71	21.64	22.53	22.58	21.23	18.34	17.74	18.17	17.91	18.11	20.33
65	17.06	18.52	18.06	18.52	18.71	19.28	3.47	5.21	4.08	4.84	4.76	3.95	13.59	13.31	13.99	13.68	13.94	15.33
80	7.56	8.36	8.11	8.36	8.39	8.78	0.92	1.87	0.91	1.13	0.98	0.52	6.64	6.48	7.20	7.23	7.41	8.26
90	3.79	4.17	4.07	4.17	4.15	4.34	0.83	1.30	0.79	0.82	0.75	0.59	2.96	2.87	3.28	3.35	3.40	3.75
女性																		
0	83.91	85.16	85.44	85.99	85.90	86.82	56.22	57.59	56.69	58.20	57.45	55.69	27.68	27.57	28.74	27.78	28.46	31.13
20	64.41	65.62	65.85	66.39	66.36	67.15	38.29	39.48	38.83	40.36	39.78	38.21	26.12	26.14	27.02	26.03	26.57	28.94
40	44.86	46.04	46.30	46.83	46.85	47.53	20.62	21.88	21.30	22.90	22.31	20.93	24.24	24.16	25.00	23.93	24.54	26.60
65	21.79	22.88	23.11	23.56	23.67	24.17	4.17	4.93	4.22	5.49	5.01	4.22	17.62	17.95	18.89	18.07	18.66	19.95
80	10.06	10.91	11.02	11.33	11.36	11.69	2.03	2.11	1.75	2.20	1.70	1.13	8.03	8.80	9.28	9.12	9.66	10.56
90	4.83	5.37	5.38	5.51	5.48	5.64	1.52	1.60	1.56	1.69	1.47	1.13	3.32	3.77	3.82	3.82	4.01	4.51

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

さらに平均受療期間を入院・外来別にみると（表 2）、入院の場合は概ね全ての年齢で平均受療期間が短縮する傾向にある。しかし外来の場合は、65 歳以上では男女とも平均受療期間が延びる傾向にあるが、40 歳以下では変化の傾向があまり明瞭ではない。

表 2. 入院・外来別平均受療期間: 1999~2014 年

(年)

年齢	平均受療期間						入院						外来					
	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年
男性																		
0	21.48	20.59	21.37	21.04	21.56	24.14	0.99	0.97	0.93	0.86	0.79	0.77	20.49	19.62	20.44	20.18	20.77	23.37
20	19.52	18.85	19.29	18.99	19.16	21.52	0.96	0.94	0.90	0.83	0.76	0.74	18.57	17.91	18.39	18.16	18.40	20.77
40	18.34	17.74	18.17	17.91	18.11	20.33	0.90	0.89	0.86	0.80	0.73	0.71	17.44	16.84	17.31	17.11	17.38	19.62
65	13.59	13.31	13.99	13.68	13.94	15.33	0.70	0.72	0.71	0.67	0.61	0.60	12.89	12.59	13.27	13.02	13.33	14.73
80	6.64	6.48	7.20	7.23	7.41	8.26	0.51	0.53	0.55	0.51	0.47	0.46	6.13	5.95	6.65	6.72	6.94	7.80
90	2.96	2.87	3.28	3.35	3.40	3.75	0.37	0.40	0.46	0.40	0.36	0.34	2.59	2.47	2.82	2.95	3.05	3.41
女性																		
0	27.68	27.57	28.74	27.78	28.46	31.13	1.28	1.28	1.22	1.10	0.98	0.94	26.41	26.29	27.52	26.69	27.48	30.19
20	26.12	26.14	27.02	26.03	26.57	28.94	1.25	1.25	1.19	1.07	0.95	0.91	24.87	24.88	25.82	24.96	25.62	28.03
40	24.24	24.16	25.00	23.93	24.54	26.60	1.21	1.22	1.16	1.04	0.93	0.88	23.03	22.94	23.84	22.88	23.62	25.72
65	17.62	17.95	18.89	18.07	18.66	19.95	1.08	1.11	1.06	0.95	0.84	0.80	16.54	16.84	17.83	17.12	17.82	19.15
80	8.03	8.80	9.28	9.12	9.66	10.56	0.90	0.95	0.91	0.81	0.71	0.66	7.13	7.85	8.37	8.32	8.96	9.89
90	3.32	3.77	3.82	3.82	4.01	4.51	0.68	0.73	0.72	0.62	0.54	0.49	2.64	3.03	3.11	3.20	3.47	4.02

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

さて、平均健康期間・平均受療期間は、これら期間の長さ自体も重要な意味を持つが、他方で平均余命に占めるそれぞれの割合という視点も重要である（齋藤 2001）。そこで次に、ある年齢の平均余命に対し、入院・外来別の受療期間がどの程度の割合あるかを観察したい。

表 3 をみると、平均余命に占める平均受療期間全体の割合は概ね 80 歳までは高年齢ほど高くなっている。また男女とも 0 歳時では平均余命の 3 割前後であるが、40 歳時では約半分が受療状態に、80 歳時では男性の約 9 割、女性の約 8 割が受療期間となっている。入院・外来別にみると、入院の場合の平均受療期間割合は男女とも 40 歳代では平均余命の 3% 以下に過ぎないが、65 歳以上になると急激に大きくなり、90 歳以上では 10% 前後に及んでいる。また時系列で比較すると、近年になるほど平均余命に占める入院の平均受療期間割合は小さくなっている。

表3. 平均余命に占める平均受療期間の割合：1999～2014年

(%)

年齢	平均受療期間の割合						入院						外来					
	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年
男性																		
0	27.8	26.0	27.2	26.6	27.1	30.0	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	26.6	24.8	26.0	25.5	26.1	29.0
20	33.8	31.6	32.7	31.8	32.0	35.3	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3	1.2	32.1	30.0	31.2	30.4	30.7	34.1
40	47.5	43.9	45.7	44.3	44.5	48.9	2.3	2.2	2.2	2.0	1.8	1.7	45.2	41.7	43.5	42.3	42.7	47.2
65	79.7	71.9	77.4	73.9	74.5	79.5	4.1	3.9	4.0	3.6	3.3	3.1	75.5	68.0	73.5	70.3	71.3	76.4
80	87.8	77.6	88.7	86.5	88.3	94.0	6.8	6.4	6.8	6.1	5.6	5.2	81.1	71.2	82.0	80.4	82.7	88.8
90	78.1	68.8	80.5	80.4	82.0	86.4	9.8	9.6	11.3	9.7	8.6	7.8	68.3	59.2	69.2	70.7	73.4	78.6
女性																		
0	33.0	32.4	33.6	32.3	33.1	35.9	1.5	1.5	1.4	1.3	1.1	1.1	31.5	30.9	32.2	31.0	32.0	34.8
20	40.6	39.8	41.0	39.2	40.0	43.1	1.9	1.9	1.8	1.6	1.4	1.4	38.6	37.9	39.2	37.6	38.6	41.7
40	54.0	52.5	54.0	51.1	52.4	56.0	2.7	2.6	2.5	2.2	2.0	1.9	51.3	49.8	51.5	48.9	50.4	54.1
65	80.8	78.5	81.7	76.7	78.8	82.5	5.0	4.8	4.6	4.0	3.6	3.3	75.9	73.6	77.2	72.7	75.3	79.2
80	79.8	80.6	84.2	80.6	85.0	90.3	9.0	8.7	8.2	7.1	6.2	5.7	70.8	72.0	75.9	73.4	78.8	84.6
90	68.7	70.2	71.1	69.3	73.1	80.0	14.0	13.7	13.3	11.3	9.9	8.7	54.6	56.5	57.8	58.1	63.2	71.2

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

一方の外来の場合も、加齢とともに平均余命に占める平均受療期間の割合が大きくなる傾向は共通して見られるが、80歳以上になると逆に平均余命に占める割合が低下している。これは前掲図1で示した様に、高年齢における受療率の低下が影響している。また時系列変化をみると、いずれの年齢も概して縮小傾向にあるが、男女とも80歳以上では平均余命に対して平均受療期間の占める割合が大きくなっている。

これら平均余命の伸長、平均健康期間の短縮、あるいは平均余命に占める平均受療期間の割合の拡大は、Friesが指摘する「疾病の圧縮 compression of morbidity」が後退していることを示しているともいえるだろう (Fries 1980)。

3-2) 傷病状態からみた平均健康期間・平均受療期間の動向

受療状態についてより詳細に分析を行うため、本節では傷病別に観察を行う。

はじめに、入院と外来を合わせた平均受療期間ならびに傷病分類別の割合を表4に、また特定年齢についての傷病分類別の割合を表5に示す。なお、傷病分類別の平均受療期間を年齢別に表章したものは参考表1～3に掲げた。

男女ともに平均受療期間に占める割合が10%を超える高い傷病は、内分泌、栄養及び代謝疾患ならびに免疫障害（以下、内分泌等の疾患と略す）、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患であり、男女ともこの4つの傷病でいずれの年次においても平均受療期間の65%前後を占めている。ただし、男女で傷病の構造に相違があり、呼吸器系の疾患は男性で、筋骨格系及び結合組織の疾患は女性で割合が大きい。

表4. 傷病分類別にみた平均受療期間割合：1999～2014年

		男性						女性					
平均受療期間, 傷病分類		1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	1999年	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年
平均受療期間		21.48	20.59	21.37	21.04	21.56	24.14	27.68	27.57	28.74	27.78	28.46	31.13
傷病分類別割合	感染症及び寄生虫症	3.5	3.7	3.9	3.4	2.8	3.0	3.0	3.3	3.3	3.1	2.7	2.8
	新生物	5.7	5.8	5.9	5.8	5.4	5.0	4.5	4.3	4.1	4.4	4.3	4.2
	(悪性新生物)	(4.4)	(4.8)	(5.0)	(5.1)	(4.8)	(4.5)	(3.0)	(2.9)	(2.7)	(3.0)	(2.9)	(2.8)
	血液及び造血器の疾患	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6
	内分泌, 栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	9.7	10.9	10.9	10.9	11.9	12.7	10.7	11.6	11.3	10.8	12.4	12.9
	(糖尿病)	(6.8)	(7.5)	(7.4)	(7.4)	(7.9)	(8.5)	(5.0)	(5.2)	(5.1)	(4.7)	(5.1)	(5.3)
	精神及び行動の障害	4.6	5.6	6.2	6.9	6.6	7.1	4.9	6.3	6.8	7.4	6.6	7.4
	神経系及び感覚器の疾患	2.8	3.4	3.7	3.6	4.0	4.5	3.1	3.4	4.1	3.8	4.2	5.0
	循環器系の疾患	31.9	30.8	29.7	30.5	31.0	31.0	33.4	31.6	30.6	29.9	30.2	28.8
	(脳血管疾患)	(5.4)	(5.1)	(4.4)	(4.3)	(3.6)	(3.1)	(4.8)	(4.4)	(3.8)	(3.7)	(3.0)	(2.5)
	(高血圧性心疾患)	(18.5)	(18.4)	(18.8)	(19.8)	(21.3)	(22.1)	(22.5)	(21.6)	(21.9)	(21.8)	(22.9)	(22.4)
	(心疾患(高血圧性を除く))	(6.7)	(6.2)	(5.6)	(5.4)	(5.2)	(5.0)	(5.3)	(4.8)	(4.2)	(3.7)	(3.5)	(3.3)
	呼吸器系の疾患	13.4	12.0	12.4	11.3	12.2	11.6	9.8	8.9	9.3	8.8	9.4	9.6
	消化器系の疾患	9.5	8.3	7.1	6.5	5.8	5.8	7.6	7.0	6.7	6.2	5.7	6.0
	筋骨格系及び結合組織の疾患	8.8	9.1	9.5	9.9	9.7	8.9	14.1	14.6	14.8	15.8	15.3	13.9
	損傷及び中毒	3.5	3.2	3.3	3.6	3.7	3.4	2.7	2.7	2.8	3.2	3.2	3.0
その他	2.0	1.9	1.9	2.3	2.1	1.9	2.6	2.5	2.5	2.6	2.4	2.3	

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。割合は平均受療期間に対して。()は再掲。

次に特定年齢についてみると(表5)、呼吸器系の疾患による割合が10%前後と高いのは0歳時のみである。また循環器系の疾患では高血圧性疾患が0歳時の男性を除くいずれの年齢も20%以上であるほか、脳血管疾患は65歳時までは割合が低いものの高年齢ほど高くなっている。ただし、近年になるにつれて特に高年齢における循環器系の疾患、中でも脳血管疾患で低下傾向がみられる。

男女を比べると、男性が高い傾向があるのは新生物、呼吸器系の疾患であり、逆に女性が高い傾向があるのは筋骨格系及び結合組織の疾患、ならびに80歳時での循環器系の疾患である。こうした男女差の存在は、老年医学で得られた知見と一致する(鈴木2012)。なお、循環器系の疾患は、特に高血圧性疾患で女性は水準が高いながら緩やかな上昇であるのに対し、男性は女性に比べて水準はまだ低いものの、上昇幅は女性を上回っている。

表5. 特定年齢における平均受療期間と傷病分類別平均受療期間割合：1999, 2005, 2014年

		0歳時						65歳時						80歳時					
平均受療期間, 傷病分類		男性			女性			男性			女性			男性			女性		
平均受療期間(年)		1999年	2005年	2014年															
傷病分類別割合	感染症及び寄生虫症	3.5	3.9	3.0	3.0	3.3	2.8	2.7	2.9	2.0	2.0	2.3	1.7	2.0	2.2	1.9	1.5	1.6	1.4
	新生物	5.7	5.9	5.0	4.5	4.1	4.2	7.5	7.8	6.9	3.8	3.3	3.4	7.1	7.7	7.2	3.0	2.6	2.7
	(悪性新生物)	(4.4)	(5.0)	(4.5)	(3.0)	(2.7)	(2.8)	(6.1)	(6.9)	(6.4)	(3.0)	(2.6)	(2.8)	(5.9)	(7.1)	(6.8)	(2.5)	(2.1)	(2.3)
	内分泌, 栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	9.7	10.9	12.7	10.7	11.3	12.9	8.9	10.7	13.2	10.2	11.6	13.6	6.3	6.5	9.6	6.9	7.8	9.4
	(糖尿病)	(6.8)	(7.4)	(8.5)	(5.0)	(5.1)	(5.3)	(6.8)	(7.7)	(9.6)	(5.7)	(5.7)	(6.3)	(5.0)	(4.4)	(7.1)	(4.8)	(4.6)	(5.0)
	精神及び行動の障害	4.6	6.2	7.1	4.9	6.8	7.4	2.4	2.8	2.8	3.5	4.2	4.2	2.3	2.7	2.5	4.0	4.4	4.1
	神経系及び感覚器の疾患	2.8	3.7	4.5	3.1	4.1	5.0	2.4	3.3	4.1	2.6	3.8	5.5	2.3	3.9	5.4	2.4	4.5	7.8
	循環器系の疾患	31.9	29.7	31.0	33.4	30.6	28.8	41.2	37.8	39.9	43.3	39.8	39.1	45.2	39.9	40.6	50.5	46.0	43.5
	(脳血管疾患)	(5.4)	(4.4)	(3.1)	(4.8)	(3.8)	(2.5)	(8.3)	(6.4)	(4.7)	(7.2)	(5.5)	(3.8)	(11.0)	(8.1)	(6.0)	(11.2)	(8.3)	(5.3)
	(高血圧性心疾患)	(18.5)	(18.8)	(22.1)	(22.5)	(21.9)	(22.4)	(22.0)	(22.6)	(27.2)	(27.7)	(27.6)	(29.9)	(21.2)	(21.1)	(25.3)	(28.3)	(28.6)	(31.1)
	(心疾患(高血圧性を除く))	(6.7)	(5.6)	(5.0)	(5.3)	(4.2)	(3.3)	(9.3)	(7.6)	(7.0)	(7.4)	(5.9)	(4.9)	(11.3)	(9.2)	(8.3)	(9.7)	(8.4)	(6.7)
	呼吸器系の疾患	13.4	12.4	11.6	9.8	9.3	9.6	6.7	6.1	5.5	4.2	4.2	3.8	7.0	7.0	6.4	3.8	4.1	3.4
	消化器系の疾患	9.5	7.1	5.8	7.6	6.7	6.0	8.8	7.5	5.8	7.7	6.8	5.5	7.2	7.4	5.6	6.8	6.4	5.1
	筋骨格系及び結合組織の疾患	8.8	9.5	8.9	14.1	14.8	13.9	10.1	11.2	10.3	16.9	17.6	17.3	10.3	11.5	10.4	14.9	15.9	16.0
	腎臓泌尿器系の疾患	4.6	5.4	5.1	3.6	3.8	4.0	5.9	6.9	6.5	1.8	2.3	2.1	6.6	7.6	7.1	1.6	2.1	2.1
	損傷及び中毒	3.5	3.3	3.4	2.7	2.8	3.0	1.9	1.7	1.8	2.3	2.4	2.7	2.2	2.1	2.1	2.9	3.1	3.2
その他	2.0	1.9	1.9	2.6	2.5	2.3	1.4	1.4	1.2	1.6	1.6	1.3	1.5	1.6	1.4	1.7	1.6	1.3	

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。割合は平均受療期間に対して。()は再掲。

さらに、平均受療期間の傷病分類別割合を入院・外来別に観察しよう(表6, 参考表2)。はじめに入院についてみると、平均受療期間に占める割合が10%を超える高い傷病は、新生物(男性のみ)、精神及び行動の障害、神経系及び感覚器の疾患(女性のみ)、循環器系の疾患、損傷及び中毒(女性のみ)となっている。新生物は、そのほとんどが悪性新生物であり、循環器系の疾患の中心は脳血管疾患、とりわけ脳梗塞である。精神及び行動の障害では、「統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害」の割合が大きい。また、神経系及び感覚器の疾患にはアルツハイマー病が含まれる。これらの結果を全体(前掲表3)と比べると、精神及び行動の障害の割合が10%を超えていることのほか、循環器系の疾患の構成が全体では高血圧性心疾患の割合が高いのに対し、入院では脳血管疾患の割合が高いことが特徴としてあげられよう。男女で比べると、男性の方が高い傷病は新生物、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患であり、逆に女性の方が高いものは循環器系の疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患、損傷及び中毒である。また男女に共通した特徴として、循環器系の疾患は高年齢ほど平均受療期間に占める割合が高くなることがあげられる。その大部分は脳血管疾患であり、特に脳梗塞である。

表6. 入院・外来別, 特定年齢における平均受療期間および同期間に占める傷病分類別割合: 1999, 2005, 2014年

平均受療期間, 傷病分類	(年, %)																	
	0歳時						65歳時						80歳時					
	男性			女性			男性			女性			男性			女性		
	1999年	2005年	2014年															
入院																		
平均受療期間(年)	0.99	0.93	0.77	1.28	1.22	0.94	0.70	0.71	0.60	1.08	1.06	0.80	0.51	0.55	0.46	0.90	0.91	0.66
感染症及び寄生虫症	2.9	2.2	1.8	1.8	1.6	1.6	2.9	2.2	1.9	1.7	1.5	1.5	2.9	2.4	2.1	1.5	1.3	1.6
新生物 (悪性新生物)	13.6	13.7	12.9	8.8	8.2	8.4	16.0	15.0	14.2	7.2	6.7	7.1	11.5	10.5	10.4	4.9	4.5	4.9
(11.5)	(12.1)	(11.9)	(6.9)	(6.8)	(7.2)	(13.8)	(13.5)	(13.3)	(6.1)	(5.8)	(6.4)	(10.1)	(9.5)	(9.6)	(4.2)	(3.9)	(4.4)	
内分泌, 栄養及び代謝疾患 並びに免疫障害	3.2	2.7	2.4	3.6	2.8	2.8	3.1	2.7	2.5	3.8	3.0	3.1	2.9	2.5	2.6	3.6	2.8	3.2
(2.7)	(2.0)	(1.5)	(2.9)	(2.1)	(1.7)	(2.7)	(2.0)	(1.5)	(3.1)	(2.2)	(1.8)	(2.3)	(1.6)	(1.4)	(2.8)	(2.0)	(1.9)	
精神及び行動の障害	21.3	21.1	19.6	18.3	18.6	17.9	11.9	13.3	12.6	13.7	14.5	13.4	8.4	8.7	7.0	11.4	11.8	9.2
神経系及び感覚器の疾患	4.8	6.3	8.7	5.1	7.3	10.7	3.9	5.9	8.6	4.6	7.2	11.0	3.9	6.2	9.6	4.1	7.0	11.5
循環器系の疾患	22.6	22.7	18.9	31.4	28.8	21.3	31.1	29.3	22.9	38.0	33.9	24.9	37.2	33.6	25.1	44.3	38.5	28.3
(15.6)	(16.5)	(12.3)	(21.4)	(21.0)	(14.1)	(21.8)	(21.5)	(15.0)	(25.9)	(24.8)	(16.4)	(26.3)	(24.3)	(16.2)	(30.0)	(27.8)	(18.3)	
(高血圧性心疾患)	(1.1)	(0.5)	(0.3)	(2.9)	(1.5)	(0.8)	(1.5)	(0.7)	(0.5)	(3.6)	(1.8)	(1.0)	(2.2)	(1.1)	(0.7)	(4.5)	(2.3)	(1.3)
(心疾患(高血圧性を除く))	(4.6)	(4.6)	(5.0)	(6.3)	(5.6)	(5.5)	(6.2)	(5.8)	(6.1)	(7.7)	(6.6)	(6.6)	(7.5)	(7.0)	(7.1)	(9.0)	(7.7)	(7.9)
呼吸器系の疾患	7.0	8.1	9.9	4.7	5.5	7.1	8.6	9.8	12.4	4.8	5.7	7.8	11.1	13.5	17.1	5.3	6.7	9.5
消化器系の疾患	6.6	5.6	5.7	4.7	4.2	4.4	6.2	5.4	5.7	4.6	4.2	4.4	5.5	4.9	5.4	4.2	3.9	4.3
筋骨格系及び結合組織の疾患	3.7	3.4	4.2	6.7	6.1	6.5	3.5	3.3	4.4	7.0	6.5	6.8	3.5	3.5	4.3	6.3	6.0	6.1
泌尿生殖器系の疾患	3.6	3.6	4.0	2.7	3.0	3.6	4.2	4.3	4.7	2.6	3.0	3.7	4.0	4.3	4.9	2.3	2.8	3.7
損傷及び中毒	7.8	7.4	8.6	9.2	10.5	12.5	6.3	6.6	8.1	9.9	11.5	13.9	6.8	7.3	9.1	10.3	12.2	15.0
その他	3.0	3.2	3.2	2.9	3.2	3.3	2.1	2.3	2.0	2.1	2.4	2.3	2.3	2.7	2.4	1.9	2.5	2.6
外来																		
平均受療期間(年)	20.49	20.44	23.37	26.41	27.52	30.19	12.89	13.27	14.73	16.54	17.83	19.15	6.13	6.65	7.80	7.13	8.37	9.89
感染症及び寄生虫症	3.5	3.9	3.0	3.1	3.4	2.8	2.7	2.9	2.0	2.0	2.4	1.7	2.0	2.2	1.8	1.5	1.6	1.4
新生物 (悪性新生物)	5.3	5.6	4.8	4.3	3.9	4.1	7.0	7.4	6.6	3.5	3.1	3.2	6.8	7.5	7.0	2.8	2.4	2.6
(4.1)	(4.7)	(4.2)	(2.8)	(2.6)	(2.7)	(5.7)	(6.6)	(6.1)	(2.7)	(2.5)	(2.7)	(5.6)	(6.9)	(6.6)	(2.3)	(1.9)	(2.2)	
内分泌, 栄養及び代謝疾患 並びに免疫障害	10.0	11.3	13.1	11.0	11.7	13.2	9.2	11.1	13.6	10.7	12.1	14.0	6.6	6.8	10.0	7.3	8.3	9.8
(7.0)	(7.7)	(8.7)	(5.1)	(5.2)	(5.4)	(7.0)	(8.0)	(10.0)	(5.9)	(5.9)	(6.5)	(5.2)	(4.7)	(7.4)	(5.0)	(4.9)	(5.2)	
精神及び行動の障害	3.7	5.5	6.7	4.2	6.3	7.0	1.9	2.2	2.4	2.9	3.6	3.8	1.8	2.2	2.2	3.0	3.6	3.7
神経系及び感覚器の疾患	2.7	3.6	4.4	3.0	4.0	4.9	2.3	3.1	4.0	2.5	3.6	5.2	2.2	3.7	5.2	2.2	4.3	7.6
循環器系の疾患	32.4	30.1	31.4	33.5	30.7	29.1	41.8	38.3	40.6	43.7	40.2	39.7	45.9	40.5	41.5	51.2	46.8	44.6
(4.9)	(3.9)	(2.8)	(4.0)	(3.0)	(2.1)	(7.5)	(5.6)	(4.3)	(6.0)	(4.4)	(3.3)	(9.7)	(6.8)	(5.4)	(8.8)	(6.1)	(4.4)	
(高血圧性心疾患)	(19.4)	(19.6)	(22.8)	(23.4)	(22.8)	(23.1)	(23.1)	(23.8)	(28.2)	(29.3)	(29.1)	(31.1)	(22.8)	(22.8)	(26.7)	(31.3)	(31.4)	(33.0)
(心疾患(高血圧性を除く))	(6.8)	(5.6)	(5.0)	(5.2)	(4.1)	(3.3)	(9.4)	(7.7)	(7.1)	(7.4)	(5.9)	(4.8)	(11.6)	(9.4)	(8.4)	(9.8)	(8.5)	(6.6)
呼吸器系の疾患	13.7	12.6	11.7	10.0	9.5	9.6	6.6	5.9	5.2	4.1	4.1	3.6	6.6	6.4	5.8	3.6	3.8	3.0
消化器系の疾患	9.6	7.2	5.8	7.8	6.8	6.0	8.9	7.6	5.8	7.9	7.0	5.5	7.3	7.6	5.6	7.2	6.7	5.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	9.0	9.8	9.0	14.5	15.1	14.2	10.5	11.6	10.6	17.6	18.2	17.7	10.9	12.1	10.7	16.0	17.0	16.6
泌尿生殖器系の疾患	4.7	5.5	5.1	3.6	3.8	4.1	6.0	7.1	6.6	1.8	2.3	2.0	6.8	7.8	7.2	1.5	2.0	2.0
損傷及び中毒	3.3	3.1	3.2	2.4	2.5	2.8	1.7	1.5	1.6	1.8	1.9	2.2	1.8	1.7	1.7	2.0	2.1	2.4
その他	1.9	1.8	1.8	2.6	2.4	2.3	1.4	1.3	1.2	1.6	1.5	1.3	1.4	1.5	1.3	1.7	1.5	1.2

厚生労働省「患者調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。割合は平均受療期間に対して。()は再掲。

次に外来についてみると、平均受療期間に占める割合が10%を超える傷病は、内分泌等の疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患(0歳時のみ)、筋骨格系及び結合組織の疾患

となっている。このうち内分泌等の疾患は糖尿病の占める割合が大きく、循環器系の疾患は高血圧性心疾患が中心になっている。筋骨格系及び結合組織の疾患では男女とも脊椎障害が多いが、女性のみ関節症の割合も高い。男女で比べると、男性が高くなっているのは新生物、呼吸器系の疾患、腎尿路生殖器系の疾患であり、逆に女性が高くなっているのは循環器系の疾患（80歳時のみ）、筋骨格系及び結合組織の疾患である。男女に共通した特徴として、循環器系の疾患は高年齢ほど平均受療期間に占める割合が高くなることであり、その多くが高血圧性心疾患である。

入院と外来を比較すると、入院で特に多くなっている傷病は新生物、精神及び行動の障害、神経系及び感覚器の疾患、脳血管疾患であり、反対に外来が特に多い傷病は内分泌等の疾患（糖尿病）、高血圧性心疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患となっている。

表7. 入院・外来別，平均受療期間に占める傷病分類（中分類）別割合（上位10位）
：1999年，2014年

順位	男性				女性			
	1999年		2014年		1999年		2014年	
	傷病中分類	割合	傷病中分類	割合	傷病中分類	割合	傷病中分類	割合
入院								
1	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	13.4	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	12.1	脳梗塞	16.5	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	10.1
2	脳梗塞	11.7	脳梗塞	7.9	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	9.0	骨折	10.1
3	骨折	4.1	その他の悪性新生物	5.1	骨折	7.2	脳梗塞	9.3
4	その他の悪性新生物	3.9	骨折	4.7	血管性及び詳細不明の認知症	5.9	アルツハイマー病	5.2
5	脳内出血	2.8	その他の呼吸器系の疾患	4.4	その他の心疾患	3.9	その他の心疾患	4.7
6	血管性及び詳細不明の認知症	2.8	肺炎	3.6	糖尿病	2.9	血管性及び詳細不明の認知症	3.2
7	その他の消化器系の疾患	2.7	その他の心疾患	3.4	高血圧性疾患	2.9	脳内出血	3.1
8	糖尿病	2.7	その他の消化器系の疾患	3.4	脳内出血	2.8	その他の呼吸器系の疾患	3.0
9	その他の損傷及びその他の外因の影響	2.6	脳内出血	3.1	虚血性心疾患	2.4	肺炎	2.9
10	肺炎	2.6	アルツハイマー病	2.9	その他の悪性新生物	2.1	その他の消化器系の疾患	2.6
外来								
1	高血圧性疾患	19.4	高血圧性疾患	22.8	高血圧性疾患	23.4	高血圧性疾患	23.1
2	糖尿病	7.0	糖尿病	8.7	糖尿病	5.1	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	6.4
3	喘息	4.2	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	4.0	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	4.6	糖尿病	5.4
4	虚血性心疾患	4.0	喘息	3.4	関節症	3.2	関節症	3.7
5	脳梗塞	4.0	脊椎障害（脊椎症を含む）	3.0	脳梗塞	3.1	脊椎障害（脊椎症を含む）	3.3
6	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	3.5	その他の消化器系の疾患	2.7	脊椎障害（脊椎症を含む）	3.1	喘息	3.1
7	その他の心疾患	2.8	前立腺肥大（症）	2.7	虚血性心疾患	2.9	その他の消化器系の疾患	2.9
8	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	2.7	その他の心疾患	2.5	胃炎及び十二指腸炎	2.7	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	2.7
9	前立腺肥大（症）	2.6	虚血性心疾患	2.4	喘息	2.6	骨の密度及び構造の障害	2.1
10	脊椎障害（脊椎症を含む）	2.6	その他の神経系の疾患	2.3	その他の心疾患	2.3	その他の神経系の疾患	2.0

厚生労働省『簡易生命表』および『患者調査』に基づき算出。

ここで傷病をより詳しく見るために、中分類を用いてみたい。ただし、紙幅の関係からここで中分類を全て示すことは不可能なので、0歳時における入院・外来別の平均受療期

間に対して占める割合が大きい傷病（上位 10）を表 7 に示す。入院の場合は男女とも、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」、脳梗塞、骨折、悪性新生物の 3 つで平均受療期間の 3 割を占めている。他方、外来の場合は男女とも高血圧性疾患が第 1 位であり、この 1 つで平均受療期間の 2 割を占めている。2 位以下は男性が糖尿病、ぜんそくであるのに対し、女性は糖尿病、その他の内分泌等の疾患、関節症であり、女性ではぜんそくの割合が小さい。

ここまで行った平均受療期間に関する分析をまとめると、以下のようなになる。第一に、時系列で見ると平均余命が伸びている中で平均受療期間は 1999～2011 年まではおおむね横ばいであったが、2011～14 年の間は長期化傾向にあった。また、平均余命に占める平均受療期間の割合は概して高年齢ほど高くなっていった。第二に、平均受療期間に占める割合を傷病分類別に求めた結果、男女、入院・外来とも循環器系の疾患は 2 割以上を占めており、さらに、高年齢ほどその割合を増していた。ただし、入院と外来では循環器系の疾患の構成が異なっており、入院では脳血管疾患、外来では高血圧性心疾患が中心であった。また、特に高年齢について 65 歳時をみると、循環器系の疾患に次ぐ傷病は、入院は男性が新生物、女性が損傷及び中毒であり、外来は男女とも筋骨格系及び結合組織の疾患であった。したがって、高年齢での入院は主に脳および精神に関するものが多く、外来は主に高血圧および外科的な傷病が多いといえるだろう。循環器系の疾患は概して受療状態に留まる期間が長期に及ぶものが多く、平均受療期間に占める割合も大きい。したがって、特に循環器系の疾患を予防・回避できるようになるか否かは、平均受療期間を短縮させ、健康的に生活できる時間を増していく上で重要な鍵となるだろう（別府・高橋 2014, 2015a）。

4. まとめと今後の課題

この研究では、傷病分類が統一して得られる 1999 年以降について、健康構造の視点から死亡率低下の背景を探ることを目的として『患者調査』データの再集計を行い、入院・外来別に年齢別受療率、傷病分類別の平均受療期間について分析した。その結果、以下の点が明らかとなった。

はじめに年齢別受療率の分析からは、高年齢における受療率の年齢パターンは、時系列比較すると低下傾向が見られること、入院の受療率は年齢とともに上昇する一方で、外来受療率は 80 歳以上になると逆に低下していたことが示された。

第二に、男女とも、平均余命および平均受療期間はいずれの年齢においても伸長する一方、平均健康期間は男女とも横ばいもしくは短縮の傾向が見られた。したがって、人口全体では Fries (1980) が指摘したように死亡率の低下によって疾病期間が短縮する「疾病の圧縮」が後退し、健康度はやや低下してきていると言えるだろう。

第三に、平均受療期間に占める割合を傷病分類別に計測した結果、男女、入院・外来とも循環器系の疾患は 2 割以上を占めており、さらに、高年齢ほどその割合が高くなっていった。循環器系の疾患は入院・外来で異なり、入院では主に脳血管疾患が多く、外来では主

に高血圧性心疾患が多いことが明らかになった。これらの傷病のうち、高血圧性心疾患はこれを直接の死因とする死亡率はあまり高くないものの、高血圧性心疾患を患っていると脳血管疾患や虚血性心疾患、腎臓の疾患等を合併しやすくなる。脳血管疾患は入院期間が長い上に死亡率も高い。したがって、これらの疾患を予防することは、単に生存期間を延ばすのみならず、平均健康期間を延ばすことにもなるだろう。

最後に、本研究に残されているいくつかの課題について言及したい。課題の第一は、「継続的に医療を受けている者」を含めた「総患者数」の推計方法についてである。本研究では『患者調査』で用いられている方法をそのまま使用し分析に用いたが、改善の余地があるだろう。課題の第二として、特定の傷病が半減するなどした場合に平均健康期間、さらには平均余命に対しどの程度の影響があるのかについて示すことがある。特に 75 歳以降（後期高齢者）について、生存期間に占める受療期間の縮減をもたらす傷病を定量的に明らかにしていきたい。こうした健康状態と受療状態、死亡率との関係について、より詳細な分析を行うことが課題として残されている。

参考表 1. 平均余命, 平均健康期間および傷病分類別平均受療期間: 1999~2014年

年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間	(年)																
				感染症及び寄生虫症	新生物	(悪性) 新生物	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織系の疾患	腎臓系及び泌尿器系の疾患	損傷及び中毒	その他
1999年																				
男性																				
0	77.16	55.68	21.48	0.76	1.22	0.95	2.08	1.45	0.98	0.61	6.86	1.17	3.98	1.44	2.88	2.04	1.89	1.00	0.74	0.43
20	57.80	38.27	19.52	0.65	1.21	0.95	2.07	1.46	0.94	0.53	6.91	1.17	4.01	1.45	1.50	2.02	1.86	0.97	0.58	0.30
40	38.62	20.28	18.34	0.57	1.20	0.96	2.00	1.44	0.70	0.45	6.94	1.19	4.03	1.45	1.22	1.86	1.77	0.93	0.43	0.26
65	17.06	3.47	13.59	0.37	1.01	0.83	1.21	0.93	0.33	0.33	5.60	1.13	2.99	1.26	0.91	1.19	1.37	0.81	0.26	0.19
80	7.56	0.92	6.64	0.13	0.47	0.40	0.42	0.33	0.15	0.15	3.00	0.73	1.41	0.75	0.46	0.48	0.69	0.44	0.14	0.10
90	3.79	0.83	2.96	0.05	0.11	0.09	0.14	0.11	0.10	0.06	1.53	0.47	0.60	0.44	0.15	0.26	0.25	0.19	0.06	0.05
女性																				
0	83.91	56.22	27.68	0.84	1.25	0.83	2.95	1.38	1.34	0.85	9.25	1.32	6.23	1.46	2.71	2.11	3.92	0.99	0.75	0.73
20	64.41	38.29	26.12	0.73	1.23	0.83	2.93	1.38	1.31	0.78	9.30	1.33	6.26	1.46	1.63	2.09	3.90	0.95	0.66	0.60
40	44.86	20.62	24.24	0.60	1.13	0.79	2.78	1.37	1.05	0.70	9.30	1.34	6.29	1.46	1.25	1.93	3.79	0.67	0.56	0.48
65	21.79	4.17	17.62	0.35	0.66	0.52	1.81	1.00	0.62	0.46	7.63	1.27	4.88	1.30	0.29	1.35	2.98	0.32	0.40	0.29
80	10.06	2.03	8.03	0.12	0.24	0.20	0.55	0.38	0.32	0.20	4.05	0.90	2.27	0.78	0.30	0.55	1.20	0.13	0.23	0.14
90	4.83	1.52	3.32	0.04	0.07	0.06	0.12	0.08	0.19	0.07	1.92	0.58	0.86	0.44	0.14	0.19	0.35	0.06	0.11	0.06
2002年																				
男性																				
0	79.24	58.65	20.59	0.76	1.19	0.98	2.25	1.54	1.15	0.70	6.34	1.04	3.79	1.28	2.48	1.71	1.87	1.09	0.66	0.40
20	59.70	40.85	18.85	0.66	1.18	0.98	2.23	1.54	1.08	0.62	6.36	1.05	3.81	1.27	1.36	1.68	1.83	1.06	0.51	0.27
40	40.44	22.71	17.74	0.59	1.17	0.98	2.17	1.53	0.79	0.54	6.38	1.06	3.82	1.28	1.16	1.55	1.74	1.02	0.38	0.24
65	18.52	5.21	13.31	0.38	1.01	0.87	1.35	1.02	0.37	0.40	5.19	0.98	2.88	1.13	0.90	1.06	1.36	0.90	0.24	0.18
80	8.36	1.87	6.48	0.15	0.49	0.44	0.43	0.33	0.17	0.22	2.70	0.62	1.31	0.68	0.47	0.49	0.66	0.48	0.14	0.09
90	4.17	1.30	2.87	0.04	0.17	0.16	0.13	0.09	0.11	0.10	1.30	0.36	0.52	0.38	0.22	0.20	0.23	0.22	0.10	0.04
女性																				
0	85.16	57.59	27.57	0.90	1.18	0.79	3.19	1.43	1.73	0.94	8.72	1.22	5.96	1.32	2.44	1.94	4.03	1.06	0.74	0.69
20	65.62	39.48	26.14	0.80	1.16	0.79	3.17	1.43	1.67	0.88	8.75	1.23	6.00	1.32	1.53	1.90	4.02	1.02	0.65	0.57
40	46.04	21.88	24.16	0.65	1.05	0.76	3.03	1.42	1.32	0.78	8.75	1.23	6.02	1.32	1.19	1.75	3.90	0.74	0.56	0.45
65	22.88	4.93	17.95	0.39	0.61	0.50	2.03	1.05	0.77	0.54	7.39	1.18	4.86	1.21	0.75	1.27	3.15	0.36	0.42	0.27
80	10.91	2.11	8.80	0.13	0.24	0.20	0.66	0.41	0.42	0.27	4.20	0.88	2.45	0.81	0.34	0.60	1.37	0.17	0.26	0.13
90	5.37	1.60	3.77	0.04	0.09	0.08	0.15	0.09	0.27	0.10	1.99	0.60	0.94	0.43	0.17	0.26	0.40	0.07	0.16	0.08
2005年																				
男性																				
0	78.51	57.14	21.37	0.82	1.26	1.06	2.33	1.59	1.33	0.79	6.36	0.94	4.01	1.20	2.64	1.53	2.04	1.15	0.71	0.40
20	59.02	39.74	19.25	0.68	1.25	1.07	2.32	1.60	1.22	0.69	6.39	0.95	4.04	1.20	1.30	1.95	2.00	1.12	0.53	0.28
40	39.81	21.64	18.17	0.60	1.25	1.07	2.27	1.58	0.88	0.61	6.41	0.96	4.06	1.20	1.10	1.41	1.91	1.09	0.39	0.25
65	18.06	4.08	13.99	0.40	1.09	0.97	1.49	1.08	0.39	0.46	5.29	0.90	3.16	1.07	0.86	1.04	1.56	0.97	0.24	0.19
80	8.11	0.91	7.20	0.16	0.56	0.51	0.46	0.32	0.19	0.28	2.88	0.59	1.52	0.66	0.50	0.54	0.83	0.54	0.15	0.11
90	4.07	0.79	3.28	0.04	0.19	0.17	0.10	0.05	0.14	0.13	1.49	0.35	0.67	0.43	0.24	0.24	0.27	0.27	0.10	0.07
女性																				
0	85.44	56.69	28.74	0.95	1.18	0.79	3.25	1.46	1.95	1.18	8.80	1.09	6.30	1.20	2.67	1.92	4.24	1.08	0.82	0.71
20	65.85	38.83	27.02	0.82	1.17	0.79	3.23	1.46	1.87	1.09	8.83	1.10	6.33	1.20	1.59	1.88	4.21	1.05	0.70	0.58
40	46.30	21.30	25.00	0.69	1.05	0.76	3.11	1.44	1.41	0.96	8.83	1.10	6.35	1.20	1.26	1.73	4.09	0.78	0.61	0.47
65	23.11	4.22	18.89	0.44	0.63	0.50	2.20	1.07	0.80	0.72	7.52	1.05	5.21	1.12	0.79	1.29	3.32	0.44	0.46	0.30
80	11.02	1.75	9.28	0.15	0.24	0.20	0.72	0.43	0.41	0.42	4.27	0.77	2.65	0.78	0.38	0.59	1.48	0.20	0.29	0.15
90	5.38	1.56	3.82	0.04	0.07	0.06	0.17	0.11	0.23	0.18	1.99	0.49	1.04	0.43	0.16	0.24	0.41	0.08	0.17	0.07

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

参考表 1. 平均余命, 平均健康期間および傷病分類別平均受療期間: 1999~2014年(つづき)

		(年)																		
年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間	2014年																
				新生物	(悪性新生物)	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎臓系及び泌尿器系の疾患	損傷及び中毒	その他	
2008年																				
男性																				
0	79.24	58.20	21.04	0.71	1.22	1.08	2.30	1.56	1.44	0.77	6.42	0.90	4.17	1.14	2.37	1.37	2.08	1.12	0.75	0.48
20	59.70	40.72	18.99	0.58	1.22	1.08	2.28	1.55	1.30	0.68	6.45	0.90	4.20	1.14	1.16	1.33	2.03	1.10	0.55	0.31
40	40.44	22.53	17.91	0.51	1.21	1.09	2.22	1.57	0.97	0.60	6.47	0.91	4.22	1.14	0.97	1.25	1.94	1.07	0.42	0.28
65	18.52	4.84	13.68	0.34	1.04	0.97	1.46	1.07	0.41	0.45	5.30	0.87	3.24	1.03	0.76	0.95	1.56	0.95	0.26	0.20
80	8.36	1.13	7.23	0.13	0.55	0.52	0.50	0.36	0.19	0.30	2.89	0.59	1.55	0.66	0.48	0.51	0.82	0.57	0.15	0.12
90	4.17	0.82	3.35	0.06	0.18	0.17	0.16	0.11	0.12	0.13	1.45	0.32	0.72	0.34	0.25	0.34	0.25	0.26	0.10	0.06
女性																				
0	85.99	58.20	27.78	0.86	1.22	0.83	3.01	1.31	2.06	1.06	8.30	1.02	6.05	1.02	2.46	1.72	4.38	1.10	0.89	0.73
20	66.39	40.36	26.03	0.73	1.20	0.83	2.98	1.30	1.97	0.99	8.32	1.02	6.08	1.02	1.42	1.67	4.35	1.07	0.76	0.58
40	46.83	22.90	23.93	0.39	1.08	0.80	2.83	1.28	1.51	0.90	8.33	1.02	6.10	1.02	1.10	1.51	4.23	0.73	0.66	0.46
65	23.56	5.49	18.07	0.38	0.63	0.53	2.02	0.96	0.70	0.70	7.10	0.98	5.03	0.95	0.68	1.10	3.44	0.38	0.51	0.30
80	11.33	2.20	9.12	0.13	0.26	0.23	0.71	0.39	0.41	0.46	4.12	0.71	2.66	0.68	0.33	0.52	1.55	0.18	0.33	0.13
90	5.51	1.69	3.82	0.04	0.08	0.07	0.17	0.11	0.23	0.22	1.93	0.44	1.07	0.40	0.15	0.22	0.47	0.07	0.18	0.05
2011年																				
男性																				
0	79.44	57.88	21.56	0.61	1.16	1.03	2.57	1.71	1.42	0.87	6.67	0.78	4.60	1.12	2.64	1.25	2.10	1.03	0.80	0.45
20	59.93	40.77	19.16	0.44	1.15	1.03	2.55	1.72	1.26	0.79	6.70	0.78	4.63	1.12	1.17	1.21	2.03	1.01	0.57	0.28
40	40.69	22.58	18.11	0.38	1.14	1.03	2.48	1.70	0.93	0.70	6.73	0.79	4.66	1.12	0.99	1.14	1.95	0.99	0.43	0.25
65	18.71	4.76	13.94	0.26	1.01	0.93	1.69	1.22	0.37	0.55	5.56	0.75	3.68	1.00	0.76	0.85	1.55	0.88	0.27	0.20
80	8.39	0.98	7.41	0.11	0.57	0.53	0.61	0.44	0.17	0.37	2.99	0.47	1.82	0.63	0.47	0.45	0.86	0.53	0.17	0.12
90	4.15	0.75	3.40	0.03	0.21	0.19	0.22	0.17	0.10	0.25	1.46	0.26	0.84	0.32	0.24	0.21	0.32	0.22	0.11	0.04
女性																				
0	85.90	57.45	28.46	0.76	1.21	0.82	3.53	1.44	1.87	1.19	8.59	0.85	6.52	0.99	2.68	1.62	4.35	1.07	0.90	0.69
20	66.36	39.78	26.57	0.60	1.19	0.82	3.50	1.45	1.78	1.13	8.62	0.85	6.56	0.99	1.51	1.57	4.32	1.05	0.76	0.54
40	46.85	22.31	24.54	0.48	1.08	0.79	3.37	1.42	1.33	1.03	8.62	0.85	6.59	0.98	1.17	1.41	4.20	0.75	0.67	0.43
65	23.67	5.01	18.66	0.32	0.64	0.53	2.44	1.09	0.73	0.83	7.41	0.82	5.53	0.92	0.72	1.02	3.41	0.40	0.49	0.27
80	11.36	1.70	9.66	0.14	0.27	0.23	0.87	0.46	0.40	0.59	4.31	0.62	2.96	0.67	0.36	0.49	1.59	0.20	0.30	0.13
90	5.48	1.47	4.01	0.06	0.08	0.07	0.20	0.13	0.22	0.30	2.04	0.36	1.25	0.40	0.18	0.21	0.41	0.08	0.17	0.06
2014年																				
男性																				
0	80.50	56.36	24.14	0.72	1.22	1.07	3.07	2.05	1.71	1.09	7.49	0.75	5.33	1.20	2.81	1.40	2.14	1.22	0.82	0.45
20	60.89	39.38	21.52	0.51	1.20	1.07	3.04	2.05	1.46	0.99	7.51	0.76	5.36	1.20	1.30	1.35	2.07	1.20	0.60	0.28
40	41.56	21.23	20.33	0.44	1.19	1.07	2.95	2.03	1.08	0.88	7.54	0.76	5.38	1.20	1.11	1.24	2.00	1.17	0.46	0.25
65	19.28	3.95	15.33	0.31	1.06	0.98	2.02	1.48	0.44	0.63	6.11	0.72	4.16	1.08	0.84	0.88	1.58	1.00	0.28	0.19
80	8.78	0.52	8.26	0.15	0.59	0.56	0.79	0.59	0.21	0.45	3.35	0.49	2.09	0.69	0.53	0.46	0.86	0.58	0.17	0.11
90	4.34	0.59	3.75	0.07	0.20	0.18	0.24	0.16	0.15	0.29	1.63	0.23	0.96	0.42	0.25	0.20	0.30	0.28	0.10	0.05
女性																				
0	86.82	55.69	31.13	0.86	1.32	0.88	4.02	1.65	2.29	1.57	8.98	0.78	6.98	1.04	2.98	1.86	4.34	1.26	0.95	0.72
20	67.15	38.21	28.94	0.66	1.30	0.88	3.98	1.65	2.16	1.48	9.00	0.78	7.01	1.04	1.70	1.79	4.30	1.22	0.80	0.55
40	47.53	20.93	26.60	0.53	1.16	0.85	3.80	1.62	1.65	1.34	9.01	0.78	7.03	1.04	1.32	1.60	4.20	0.84	0.72	0.44
65	24.17	4.22	19.95	0.33	0.67	0.56	2.70	1.27	0.83	1.09	7.80	0.75	5.96	0.97	0.76	1.10	3.44	0.42	0.53	0.26
80	11.69	1.13	10.56	0.15	0.29	0.25	0.99	0.52	0.43	0.82	4.60	0.55	3.28	0.71	0.36	0.53	1.69	0.22	0.34	0.14
90	5.64	1.13	4.51	0.05	0.10	0.09	0.28	0.17	0.23	0.42	2.23	0.33	1.45	0.43	0.18	0.21	0.48	0.08	0.18	0.06

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

参考表2. 入院・外来別、傷病分類別平均受療期間：1999～2014年

(1) 入院：1999年，2002年，2005年

年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間(入院)	感染症及び寄生虫症	新生物	(悪性)新生物	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎臓泌尿器系の疾患	損傷及び中毒	その他
1999年																				
男性																				
0	77.16	55.68	0.99	0.03	0.13	0.11	0.03	0.03	0.21	0.05	0.22	0.15	0.01	0.05	0.07	0.06	0.04	0.04	0.08	0.03
20	57.80	38.27	0.96	0.03	0.13	0.11	0.03	0.03	0.21	0.04	0.23	0.16	0.01	0.05	0.06	0.06	0.04	0.03	0.07	0.02
40	38.62	20.28	0.90	0.03	0.13	0.11	0.03	0.03	0.19	0.04	0.23	0.16	0.01	0.05	0.06	0.06	0.03	0.03	0.06	0.02
65	17.06	3.47	0.70	0.02	0.11	0.10	0.02	0.02	0.08	0.03	0.22	0.15	0.01	0.04	0.06	0.04	0.02	0.03	0.04	0.01
80	7.56	0.92	0.51	0.01	0.06	0.05	0.01	0.01	0.04	0.02	0.19	0.13	0.01	0.04	0.06	0.03	0.02	0.02	0.03	0.01
90	3.79	0.83	0.37	0.01	0.03	0.02	0.01	0.01	0.03	0.01	0.16	0.11	0.01	0.04	0.05	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01
女性																				
0	83.91	56.22	1.28	0.02	0.11	0.09	0.05	0.04	0.23	0.06	0.40	0.27	0.04	0.08	0.06	0.06	0.09	0.03	0.12	0.04
20	64.41	38.29	1.25	0.02	0.11	0.09	0.05	0.04	0.23	0.06	0.40	0.27	0.04	0.08	0.05	0.06	0.09	0.03	0.12	0.03
40	44.86	20.62	1.21	0.02	0.11	0.09	0.05	0.04	0.21	0.06	0.40	0.28	0.04	0.08	0.05	0.06	0.08	0.03	0.11	0.02
65	21.79	4.17	1.08	0.02	0.08	0.07	0.04	0.03	0.15	0.05	0.41	0.28	0.04	0.08	0.05	0.05	0.08	0.03	0.11	0.02
80	10.06	2.03	0.90	0.01	0.04	0.04	0.03	0.03	0.10	0.04	0.40	0.27	0.04	0.08	0.05	0.04	0.06	0.02	0.09	0.02
90	4.83	1.52	0.68	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.08	0.02	0.34	0.22	0.04	0.07	0.04	0.02	0.04	0.01	0.07	0.01
2002年																				
男性																				
0	79.24	58.65	0.97	0.03	0.13	0.11	0.03	0.02	0.21	0.05	0.23	0.16	0.01	0.04	0.07	0.06	0.03	0.04	0.07	0.03
20	59.70	40.85	0.94	0.02	0.13	0.11	0.03	0.02	0.21	0.05	0.23	0.16	0.01	0.04	0.06	0.06	0.03	0.04	0.07	0.02
40	40.44	22.71	0.89	0.02	0.13	0.11	0.03	0.02	0.19	0.04	0.23	0.16	0.01	0.05	0.06	0.05	0.03	0.04	0.06	0.02
65	18.52	5.21	0.72	0.02	0.11	0.10	0.02	0.02	0.09	0.03	0.22	0.16	0.01	0.04	0.06	0.04	0.02	0.03	0.05	0.02
80	8.36	1.87	0.53	0.01	0.06	0.05	0.01	0.01	0.05	0.03	0.19	0.14	0.01	0.04	0.06	0.03	0.02	0.02	0.04	0.01
90	4.17	1.30	0.40	0.01	0.03	0.03	0.01	0.01	0.04	0.02	0.16	0.11	0.01	0.04	0.05	0.02	0.01	0.01	0.03	0.01
女性																				
0	85.16	57.59	1.28	0.02	0.11	0.09	0.04	0.03	0.24	0.08	0.39	0.28	0.02	0.07	0.06	0.05	0.08	0.04	0.13	0.04
20	65.62	39.48	1.25	0.02	0.10	0.09	0.04	0.03	0.24	0.08	0.39	0.29	0.02	0.07	0.06	0.05	0.08	0.04	0.13	0.03
40	46.04	21.88	1.22	0.02	0.10	0.08	0.04	0.03	0.22	0.07	0.39	0.29	0.02	0.07	0.06	0.05	0.08	0.04	0.12	0.03
65	22.88	4.93	1.11	0.02	0.07	0.06	0.04	0.03	0.16	0.06	0.40	0.29	0.02	0.08	0.06	0.05	0.07	0.03	0.12	0.03
80	10.91	2.11	0.95	0.01	0.04	0.04	0.03	0.02	0.12	0.05	0.39	0.28	0.02	0.08	0.05	0.04	0.06	0.03	0.11	0.02
90	5.37	1.60	0.73	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.09	0.03	0.34	0.24	0.02	0.07	0.04	0.02	0.04	0.02	0.08	0.02
2005年																				
男性																				
0	78.51	57.14	0.83	0.02	0.13	0.11	0.02	0.02	0.20	0.06	0.21	0.15	0.01	0.04	0.08	0.05	0.03	0.03	0.07	0.03
20	59.02	39.74	0.90	0.02	0.13	0.11	0.02	0.02	0.20	0.05	0.21	0.15	0.01	0.04	0.07	0.05	0.03	0.03	0.07	0.02
40	39.81	21.64	0.86	0.02	0.13	0.11	0.02	0.02	0.18	0.05	0.21	0.16	0.01	0.04	0.07	0.05	0.03	0.03	0.06	0.02
65	18.06	4.08	0.71	0.02	0.11	0.10	0.02	0.01	0.10	0.04	0.21	0.15	0.01	0.04	0.07	0.04	0.02	0.03	0.05	0.02
80	8.11	0.91	0.55	0.01	0.06	0.05	0.01	0.01	0.05	0.03	0.19	0.13	0.01	0.04	0.07	0.03	0.02	0.02	0.04	0.02
90	4.07	0.79	0.46	0.01	0.03	0.03	0.01	0.00	0.04	0.02	0.17	0.11	0.01	0.04	0.07	0.02	0.02	0.02	0.04	0.01
女性																				
0	85.44	56.69	1.22	0.02	0.10	0.08	0.03	0.03	0.23	0.09	0.35	0.26	0.02	0.07	0.07	0.05	0.07	0.04	0.13	0.04
20	65.85	38.83	1.19	0.02	0.10	0.08	0.03	0.02	0.23	0.09	0.35	0.26	0.02	0.07	0.06	0.05	0.07	0.04	0.13	0.03
40	46.30	21.30	1.16	0.02	0.10	0.08	0.03	0.02	0.21	0.08	0.35	0.26	0.02	0.07	0.06	0.05	0.07	0.03	0.12	0.03
65	23.11	4.22	1.06	0.02	0.07	0.06	0.03	0.02	0.15	0.08	0.36	0.26	0.02	0.07	0.06	0.04	0.07	0.03	0.12	0.03
80	11.02	1.75	0.91	0.01	0.04	0.04	0.03	0.02	0.11	0.06	0.35	0.25	0.02	0.07	0.06	0.04	0.05	0.03	0.11	0.02
90	5.38	1.56	0.72	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.08	0.04	0.31	0.21	0.02	0.07	0.05	0.02	0.04	0.02	0.08	0.02

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

参考表2. 入院・外来別、傷病分類別平均受療期間：1999～2014年（つづき）

(2) 入院：2008年，2011年，2014年

年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間(入院)	(年)																
				感染症及び寄生虫症	新生物	(悪性)新生物	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎臓泌尿器系の疾患	損傷及び中毒	その他
2008年																				
男性																				
0	79.24	58.20	0.86	0.02	0.12	0.11	0.02	0.02	0.18	0.06	0.18	0.13	0.00	0.04	0.08	0.05	0.03	0.03	0.07	0.03
20	59.70	40.72	0.83	0.02	0.12	0.11	0.02	0.02	0.18	0.06	0.18	0.13	0.00	0.04	0.07	0.05	0.03	0.03	0.06	0.02
40	40.44	22.53	0.80	0.02	0.11	0.11	0.02	0.02	0.16	0.05	0.18	0.13	0.00	0.04	0.07	0.05	0.03	0.03	0.06	0.01
65	18.52	4.84	0.67	0.01	0.10	0.09	0.02	0.01	0.09	0.05	0.18	0.12	0.00	0.04	0.07	0.04	0.02	0.03	0.05	0.01
80	8.36	1.13	0.51	0.01	0.05	0.05	0.01	0.01	0.04	0.04	0.15	0.11	0.00	0.03	0.08	0.03	0.02	0.02	0.04	0.01
90	4.17	0.82	0.40	0.01	0.03	0.03	0.01	0.01	0.03	0.02	0.13	0.09	0.01	0.04	0.07	0.02	0.02	0.02	0.03	0.01
女性																				
0	85.99	58.20	1.10	0.02	0.09	0.08	0.03	0.02	0.20	0.09	0.28	0.20	0.01	0.06	0.07	0.05	0.07	0.04	0.13	0.03
20	66.39	40.36	1.07	0.02	0.09	0.08	0.03	0.02	0.20	0.09	0.28	0.20	0.01	0.06	0.06	0.05	0.07	0.04	0.12	0.02
40	46.83	22.90	1.04	0.02	0.09	0.07	0.03	0.02	0.19	0.09	0.28	0.20	0.01	0.06	0.06	0.04	0.07	0.03	0.12	0.02
65	23.56	5.49	0.95	0.01	0.07	0.06	0.03	0.02	0.14	0.08	0.29	0.20	0.01	0.06	0.06	0.04	0.06	0.03	0.12	0.02
80	11.33	2.20	0.81	0.01	0.04	0.03	0.03	0.02	0.09	0.07	0.28	0.20	0.01	0.06	0.06	0.03	0.05	0.03	0.11	0.02
90	5.51	1.69	0.62	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.07	0.04	0.24	0.16	0.01	0.06	0.06	0.02	0.03	0.02	0.08	0.02
2011年																				
男性																				
0	79.44	57.88	0.79	0.02	0.10	0.10	0.02	0.01	0.16	0.06	0.15	0.10	0.00	0.04	0.08	0.04	0.03	0.03	0.06	0.03
20	59.93	40.77	0.76	0.01	0.10	0.10	0.02	0.01	0.16	0.06	0.15	0.10	0.00	0.04	0.07	0.04	0.03	0.03	0.06	0.02
40	40.69	22.58	0.73	0.01	0.10	0.10	0.02	0.01	0.15	0.05	0.15	0.10	0.00	0.04	0.07	0.04	0.03	0.03	0.06	0.01
65	18.71	4.76	0.61	0.01	0.09	0.08	0.02	0.01	0.08	0.05	0.15	0.10	0.00	0.04	0.07	0.03	0.02	0.03	0.05	0.01
80	8.39	0.98	0.47	0.01	0.05	0.05	0.01	0.01	0.04	0.04	0.12	0.08	0.00	0.03	0.08	0.02	0.02	0.02	0.04	0.01
90	4.15	0.75	0.36	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.10	0.06	0.00	0.03	0.07	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01
女性																				
0	85.90	57.45	0.98	0.02	0.08	0.07	0.03	0.02	0.18	0.10	0.22	0.15	0.01	0.05	0.07	0.04	0.06	0.04	0.11	0.03
20	66.36	39.78	0.95	0.01	0.08	0.07	0.03	0.02	0.18	0.09	0.22	0.15	0.01	0.05	0.06	0.04	0.06	0.03	0.11	0.02
40	46.85	22.31	0.93	0.01	0.08	0.07	0.03	0.02	0.17	0.09	0.22	0.15	0.01	0.05	0.06	0.04	0.06	0.03	0.11	0.02
65	23.67	5.01	0.84	0.01	0.06	0.05	0.03	0.02	0.12	0.08	0.23	0.15	0.01	0.05	0.06	0.04	0.05	0.03	0.11	0.02
80	11.36	1.70	0.71	0.01	0.04	0.03	0.03	0.02	0.07	0.07	0.22	0.15	0.01	0.06	0.06	0.03	0.04	0.03	0.10	0.02
90	5.48	1.47	0.54	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.05	0.05	0.19	0.12	0.01	0.05	0.06	0.02	0.03	0.02	0.07	0.02
2014年																				
男性																				
0	80.50	56.36	0.77	0.01	0.10	0.09	0.02	0.01	0.15	0.07	0.15	0.09	0.00	0.04	0.08	0.04	0.03	0.03	0.07	0.02
20	60.89	39.38	0.74	0.01	0.10	0.09	0.02	0.01	0.14	0.06	0.15	0.09	0.00	0.04	0.07	0.04	0.03	0.03	0.06	0.01
40	41.56	21.23	0.71	0.01	0.10	0.09	0.02	0.01	0.14	0.06	0.15	0.10	0.00	0.04	0.07	0.04	0.03	0.03	0.06	0.01
65	19.28	3.95	0.60	0.01	0.09	0.08	0.01	0.01	0.08	0.05	0.14	0.09	0.00	0.04	0.07	0.03	0.03	0.03	0.05	0.01
80	8.78	0.52	0.46	0.01	0.05	0.04	0.01	0.01	0.03	0.04	0.11	0.07	0.00	0.03	0.08	0.02	0.02	0.02	0.04	0.01
90	4.34	0.59	0.34	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	0.02	0.03	0.09	0.05	0.00	0.03	0.08	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01
女性																				
0	86.82	55.69	0.94	0.01	0.08	0.07	0.03	0.02	0.17	0.10	0.20	0.13	0.01	0.05	0.07	0.04	0.06	0.03	0.12	0.03
20	67.15	38.21	0.91	0.01	0.08	0.07	0.03	0.02	0.17	0.10	0.20	0.13	0.01	0.05	0.06	0.04	0.06	0.03	0.12	0.02
40	47.53	20.93	0.88	0.01	0.07	0.06	0.03	0.02	0.15	0.09	0.20	0.13	0.01	0.05	0.06	0.04	0.06	0.03	0.11	0.02
65	24.17	4.22	0.80	0.01	0.06	0.05	0.02	0.01	0.11	0.09	0.20	0.13	0.01	0.05	0.06	0.04	0.05	0.03	0.11	0.02
80	11.69	1.13	0.66	0.01	0.03	0.03	0.02	0.01	0.06	0.08	0.19	0.12	0.01	0.05	0.06	0.03	0.04	0.02	0.10	0.02
90	5.64	1.13	0.49	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.04	0.05	0.16	0.10	0.01	0.05	0.06	0.02	0.03	0.02	0.07	0.01

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

参考表2. 入院・外来別、傷病分類別平均受療期間：1999～2014年（つづき）

(3) 外来：1999年，2002年，2005年

年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間(外来)	(年)																
				感染症及び寄生虫症	新生物	(悪性)新生物	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織系の疾患	腎臓泌尿器系の疾患	損傷及び中毒	その他
1999年																				
男性																				
0	77.16	55.68	20.49	0.73	1.08	0.84	2.05	1.43	0.77	0.56	6.64	1.01	3.97	1.39	2.81	1.97	1.85	0.96	0.67	0.40
20	57.80	38.27	18.57	0.62	1.08	0.84	2.04	1.43	0.73	0.49	6.68	1.02	4.00	1.40	1.43	1.95	1.83	0.93	0.50	0.28
40	38.62	20.28	17.44	0.54	1.06	0.84	1.97	1.42	0.52	0.42	6.72	1.03	4.02	1.41	1.16	1.81	1.74	0.89	0.37	0.24
65	17.06	3.47	12.89	0.35	0.90	0.73	1.19	0.91	0.25	0.30	5.38	0.97	2.98	1.22	0.85	1.15	1.35	0.78	0.22	0.18
80	7.56	0.92	6.13	0.12	0.42	0.34	0.40	0.32	0.11	0.13	2.81	0.60	1.40	0.71	0.41	0.45	0.67	0.42	0.11	0.09
90	3.79	0.83	2.59	0.04	0.09	0.07	0.13	0.10	0.07	0.05	1.37	0.36	0.59	0.40	0.10	0.25	0.24	0.18	0.04	0.04
女性																				
0	83.91	56.22	26.41	0.82	1.13	0.74	2.91	1.34	1.11	0.78	8.85	1.05	6.19	1.37	2.65	2.05	3.83	0.95	0.64	0.69
20	64.41	38.29	24.87	0.71	1.12	0.74	2.89	1.35	1.08	0.72	8.89	1.06	6.23	1.38	1.58	2.03	3.82	0.92	0.54	0.57
40	44.86	20.62	23.03	0.58	1.02	0.71	2.74	1.33	0.84	0.65	8.90	1.06	6.25	1.38	1.20	1.87	3.70	0.64	0.45	0.46
65	21.79	4.17	16.54	0.33	0.59	0.45	1.76	0.97	0.47	0.41	7.22	0.99	4.84	1.22	0.68	1.30	2.91	0.29	0.29	0.27
80	10.06	2.03	7.13	0.10	0.20	0.16	0.52	0.36	0.21	0.16	3.65	0.63	2.23	0.70	0.26	0.51	1.14	0.11	0.14	0.12
90	4.83	1.52	2.64	0.04	0.05	0.04	0.10	0.07	0.11	0.04	1.59	0.35	0.82	0.37	0.10	0.16	0.31	0.04	0.04	0.05
2002年																				
男性																				
0	79.24	58.65	19.62	0.73	1.06	0.87	2.22	1.52	0.95	0.64	6.11	0.88	3.78	1.23	2.41	1.65	1.84	1.05	0.59	0.37
20	59.70	40.85	17.91	0.64	1.05	0.86	2.21	1.52	0.87	0.58	6.14	0.88	3.80	1.23	1.29	1.62	1.80	1.03	0.45	0.26
40	40.44	22.71	16.84	0.57	1.04	0.87	2.15	1.50	0.60	0.50	6.15	0.89	3.81	1.23	1.09	1.50	1.71	0.99	0.32	0.23
65	18.52	5.21	12.59	0.36	0.90	0.78	1.33	1.00	0.27	0.37	4.97	0.82	2.87	1.09	0.83	1.02	1.33	0.87	0.19	0.16
80	8.36	1.87	5.95	0.14	0.43	0.39	0.41	0.32	0.12	0.20	2.51	0.48	1.30	0.64	0.41	0.46	0.64	0.45	0.10	0.07
90	4.17	1.30	2.47	0.03	0.14	0.13	0.12	0.08	0.07	0.08	1.14	0.25	0.51	0.35	0.17	0.18	0.22	0.20	0.07	0.03
女性																				
0	85.16	57.59	26.29	0.88	1.07	0.70	3.15	1.40	1.49	0.86	8.33	0.94	5.94	1.25	2.38	1.88	3.95	1.02	0.61	0.65
20	65.62	39.48	24.88	0.78	1.06	0.70	3.13	1.40	1.44	0.81	8.36	0.94	5.97	1.25	1.47	1.85	3.94	0.99	0.52	0.54
40	46.04	21.88	22.94	0.63	0.95	0.67	3.00	1.39	1.09	0.71	8.36	0.94	5.99	1.24	1.13	1.70	3.82	0.71	0.44	0.42
65	22.88	4.93	16.84	0.37	0.54	0.43	1.99	1.02	0.61	0.48	6.99	0.89	4.83	1.13	0.69	1.23	3.08	0.33	0.30	0.24
80	10.91	2.11	7.85	0.12	0.19	0.16	0.64	0.39	0.30	0.22	3.81	0.60	2.42	0.73	0.29	0.57	1.31	0.15	0.15	0.11
90	5.37	1.60	3.03	0.03	0.07	0.06	0.13	0.08	0.17	0.07	1.65	0.36	0.92	0.36	0.12	0.24	0.35	0.05	0.08	0.06
2005年																				
男性																				
0	78.51	57.14	20.44	0.80	1.14	0.95	2.31	1.57	1.13	0.74	6.15	0.79	4.01	1.15	2.57	1.47	2.01	1.12	0.64	0.38
20	59.02	39.74	18.39	0.66	1.13	0.96	2.30	1.58	1.03	0.64	6.18	0.79	4.03	1.16	1.24	1.44	1.97	1.09	0.46	0.26
40	39.81	21.64	17.31	0.58	1.12	0.96	2.25	1.56	0.70	0.56	6.20	0.80	4.06	1.16	1.03	1.36	1.88	1.05	0.33	0.23
65	18.06	4.08	13.27	0.38	0.99	0.87	1.47	1.06	0.29	0.41	5.08	0.75	3.15	1.03	0.79	1.01	1.54	0.94	0.19	0.18
80	8.11	0.91	6.65	0.15	0.50	0.46	0.45	0.31	0.14	0.25	2.69	0.45	1.52	0.63	0.43	0.51	0.81	0.52	0.11	0.10
90	4.07	0.79	2.82	0.04	0.16	0.14	0.09	0.05	0.10	0.10	1.32	0.24	0.67	0.39	0.17	0.22	0.25	0.25	0.06	0.05
女性																				
0	85.44	56.69	27.52	0.93	1.08	0.71	3.21	1.43	1.72	1.09	8.45	0.84	6.28	1.14	2.60	1.87	4.17	1.04	0.69	0.67
20	65.85	38.83	25.82	0.80	1.07	0.71	3.20	1.43	1.65	1.00	8.48	0.84	6.31	1.14	1.53	1.83	4.13	1.01	0.57	0.55
40	46.30	21.30	23.84	0.68	0.96	0.68	3.08	1.42	1.20	0.88	8.48	0.84	6.34	1.13	1.20	1.68	4.02	0.75	0.48	0.44
65	23.11	4.22	17.83	0.43	0.55	0.44	2.16	1.05	0.65	0.64	7.16	0.78	5.19	1.05	0.73	1.25	3.25	0.41	0.33	0.27
80	11.02	1.75	8.37	0.13	0.20	0.16	0.70	0.41	0.30	0.36	3.92	0.51	2.63	0.71	0.32	0.56	1.42	0.17	0.18	0.12
90	5.38	1.56	3.11	0.03	0.05	0.04	0.15	0.10	0.15	0.14	1.69	0.28	1.02	0.36	0.11	0.22	0.37	0.07	0.08	0.05

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

参考表2. 入院・外来別、傷病分類別平均受療期間：1999～2014年（つづき）

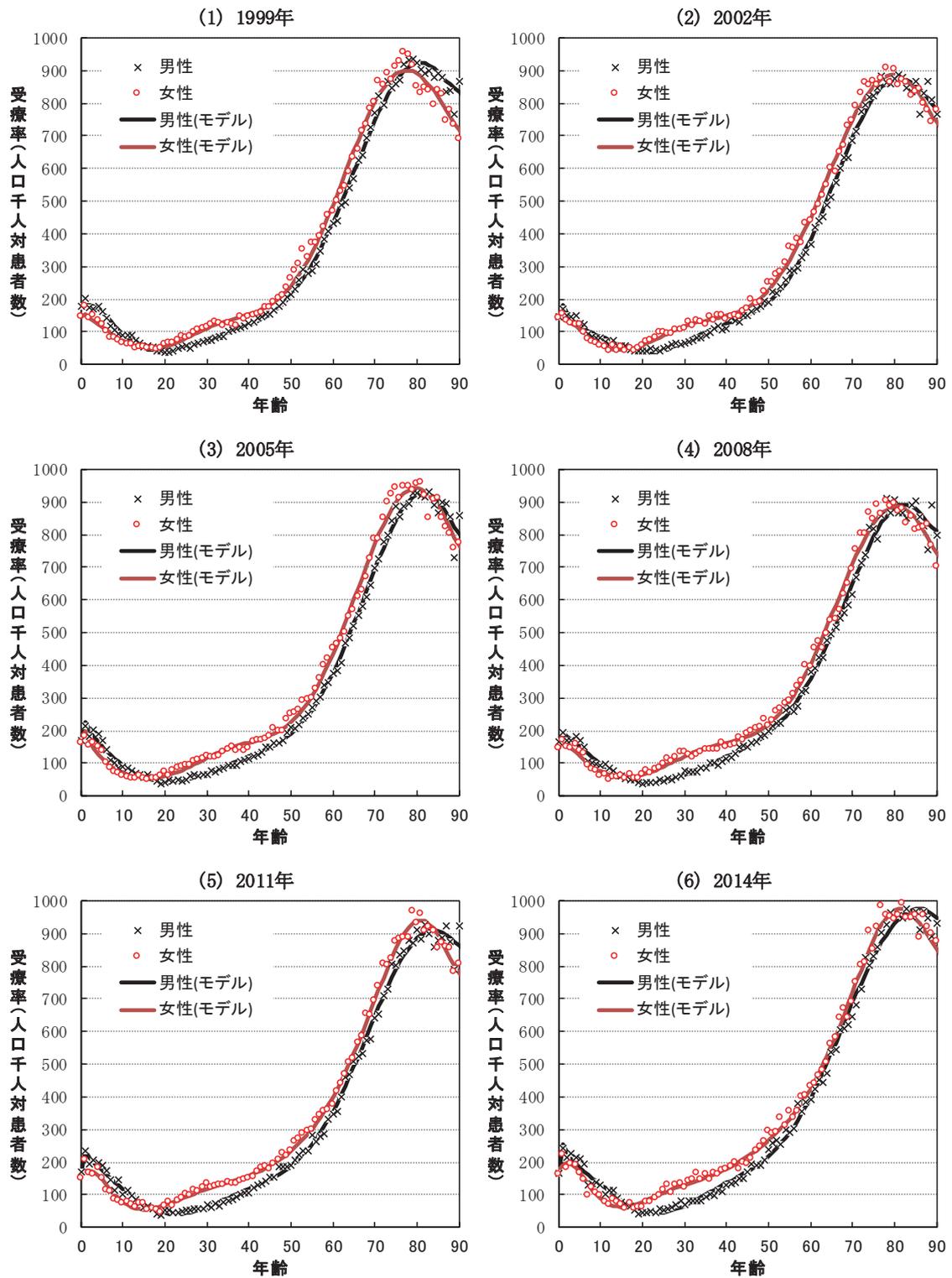
(4) 外来：2008年，2011年，2014年

(年)

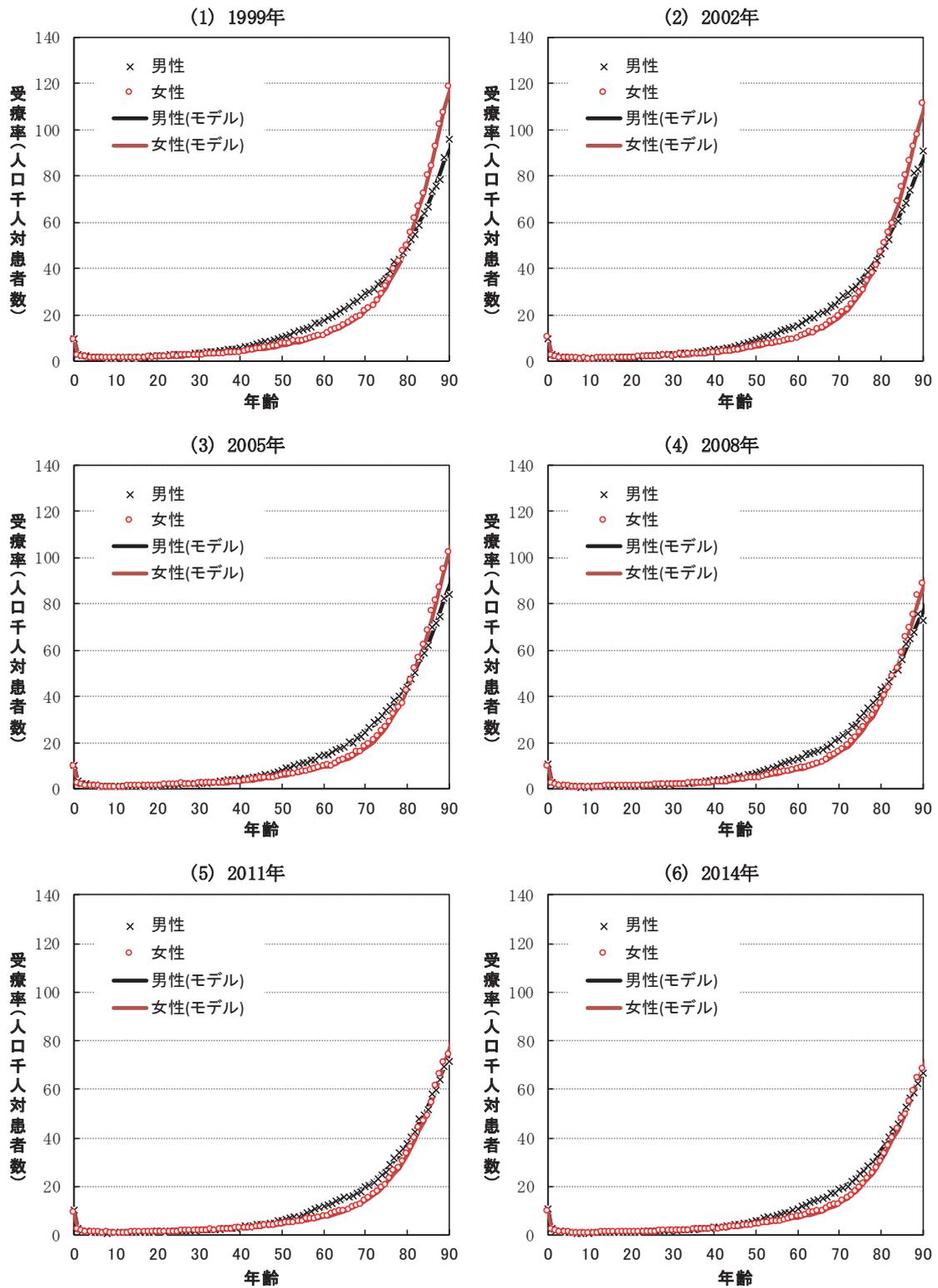
年齢	平均余命	平均健康期間	平均受療期間(外来)	感染症及び寄生虫症	新生物	(悪性)新生物	内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	(糖尿病)	精神及び行動の障害	神経系及び感覚器の疾患	循環器系の疾患	(脳血管疾患)	(高血圧性心疾患)	(心疾患(高血圧性を除く))	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	筋骨格系及び結合組織系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	損傷及び中毒	その他
2008年																				
男性																				
0	79.24	58.20	20.18	0.70	1.11	0.97	2.28	1.55	1.27	0.71	6.24	0.77	4.17	1.10	2.30	1.32	2.05	1.09	0.68	0.45
20	59.70	40.72	18.16	0.56	1.10	0.98	2.25	1.55	1.12	0.63	6.27	0.77	4.19	1.10	1.09	1.28	2.00	1.07	0.49	0.30
40	40.44	22.53	17.11	0.49	1.09	0.98	2.20	1.53	0.81	0.55	6.29	0.78	4.21	1.10	0.90	1.20	1.91	1.03	0.36	0.26
65	18.52	4.84	13.02	0.32	0.95	0.88	1.45	1.05	0.32	0.40	5.12	0.74	3.24	0.99	0.68	0.92	1.53	0.92	0.21	0.19
80	8.36	1.13	6.72	0.12	0.50	0.47	0.49	0.35	0.15	0.26	2.74	0.48	1.54	0.63	0.40	0.49	0.80	0.55	0.11	0.10
90	4.17	0.82	2.95	0.05	0.15	0.14	0.15	0.10	0.09	0.10	1.32	0.24	0.71	0.30	0.17	0.32	0.24	0.24	0.06	0.04
女性																				
0	85.99	58.20	26.69	0.84	1.13	0.76	2.98	1.29	1.86	0.97	8.02	0.82	6.04	0.96	2.39	1.68	4.31	1.06	0.77	0.69
20	66.39	40.36	24.96	0.71	1.11	0.75	2.95	1.28	1.77	0.90	8.04	0.82	6.07	0.96	1.36	1.63	4.28	1.03	0.64	0.56
40	46.83	22.90	22.88	0.57	0.99	0.73	2.80	1.26	1.32	0.81	8.04	0.82	6.09	1.03	1.03	1.47	4.17	0.69	0.54	0.44
65	23.56	5.49	17.12	0.36	0.57	0.47	1.99	1.06	0.69	0.62	6.81	0.77	5.01	0.89	0.62	1.06	3.38	0.35	0.39	0.28
80	11.33	2.20	8.32	0.12	0.22	0.19	0.69	0.37	0.32	0.39	3.84	0.52	2.65	0.62	0.26	0.49	1.51	0.15	0.22	0.11
90	5.51	1.69	3.20	0.03	0.06	0.05	0.16	0.10	0.17	0.18	1.68	0.28	1.05	0.34	0.09	0.20	0.44	0.06	0.10	0.03
2011年																				
男性																				
0	79.44	57.88	20.77	0.59	1.06	0.93	2.54	1.70	1.26	0.80	6.52	0.68	4.60	1.08	2.56	1.21	2.07	0.99	0.74	0.42
20	59.93	40.77	18.40	0.43	1.05	0.93	2.53	1.70	1.10	0.73	6.55	0.68	4.63	1.08	1.10	1.17	2.00	0.96	0.51	0.27
40	40.69	22.58	17.38	0.37	1.04	0.94	2.46	1.69	0.78	0.65	6.57	0.69	4.65	1.08	0.92	1.10	1.93	0.98	0.38	0.24
65	18.71	4.76	13.33	0.25	0.92	0.85	1.67	1.21	0.29	0.50	5.42	0.65	3.68	0.97	0.69	0.81	1.53	0.85	0.22	0.19
80	8.39	0.98	6.94	0.10	0.52	0.48	0.59	0.44	0.13	0.33	2.87	0.39	1.82	0.59	0.40	0.42	0.84	0.50	0.13	0.11
90	4.15	0.75	3.05	0.02	0.18	0.17	0.21	0.16	0.07	0.22	1.36	0.20	0.84	0.29	0.17	0.19	0.31	0.20	0.08	0.03
女性																				
0	85.90	57.45	27.48	0.74	1.13	0.75	3.50	1.42	1.69	1.10	8.36	0.70	6.51	0.93	2.61	1.58	4.29	1.04	0.79	0.65
20	66.36	39.78	25.62	0.59	1.11	0.75	3.47	1.43	1.60	1.04	8.39	0.70	6.55	0.93	1.44	1.53	4.26	1.02	0.65	0.51
40	46.85	22.31	23.62	0.46	1.00	0.72	3.34	1.41	1.16	0.94	8.39	0.70	6.58	0.93	1.10	1.38	4.14	0.72	0.56	0.41
65	23.67	5.01	17.82	0.31	0.58	0.48	2.41	1.07	0.61	0.74	7.19	0.67	5.52	0.87	0.65	0.98	3.36	0.36	0.38	0.24
80	11.36	1.70	8.96	0.13	0.24	0.20	0.85	0.45	0.32	0.52	4.09	0.47	2.94	0.62	0.30	0.46	1.55	0.17	0.21	0.11
90	5.48	1.47	3.47	0.05	0.06	0.05	0.18	0.12	0.17	0.25	1.85	0.24	1.24	0.35	0.12	0.19	0.38	0.06	0.10	0.04
2014年																				
男性																				
0	80.50	56.36	23.37	0.71	1.12	0.98	3.05	2.03	1.56	1.03	7.34	0.66	5.33	1.16	2.73	1.36	2.11	1.19	0.75	0.43
20	60.89	39.38	20.77	0.50	1.10	0.98	3.02	2.04	1.31	0.93	7.37	0.66	5.35	1.16	1.23	1.30	2.04	1.17	0.53	0.27
40	41.56	21.23	19.62	0.43	1.09	0.98	2.94	2.02	0.94	0.82	7.39	0.67	5.38	1.17	1.04	1.20	1.97	1.14	0.41	0.24
65	19.28	3.95	14.73	0.30	0.97	0.90	2.00	1.47	0.36	0.58	5.97	0.63	4.16	1.04	0.76	0.85	1.56	0.97	0.23	0.18
80	8.78	0.52	7.80	0.14	0.55	0.52	0.78	0.58	0.17	0.41	3.24	0.42	2.09	0.66	0.45	0.43	0.84	0.56	0.13	0.10
90	4.34	0.59	3.41	0.07	0.17	0.16	0.23	0.16	0.13	0.26	1.54	0.17	0.96	0.39	0.17	0.18	0.28	0.26	0.07	0.04
女性																				
0	86.82	55.69	30.19	0.85	1.24	0.82	3.99	1.63	2.12	1.47	8.78	0.65	6.97	0.99	2.91	1.82	4.27	1.22	0.83	0.69
20	67.15	38.21	28.03	0.61	1.22	0.82	3.96	1.64	1.99	1.38	8.80	0.65	7.00	0.99	1.64	1.75	4.24	1.19	0.69	0.53
40	47.53	20.93	25.72	0.51	1.08	0.79	3.77	1.61	1.50	1.25	8.81	0.65	7.03	0.98	1.26	1.56	4.15	0.81	0.60	0.42
65	24.17	4.22	19.15	0.32	0.62	0.51	2.68	1.25	0.72	1.00	7.61	0.62	5.95	0.92	0.70	1.06	3.39	0.39	0.42	0.25
80	11.69	1.13	9.89	0.14	0.25	0.22	0.97	0.51	0.37	0.75	4.41	0.43	3.27	0.66	0.30	0.51	1.64	0.19	0.24	0.12
90	5.64	1.13	4.02	0.04	0.09	0.07	0.26	0.17	0.19	0.38	2.07	0.23	1.44	0.38	0.13	0.19	0.45	0.06	0.11	0.05

厚生労働省『患者調査』および国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」に基づき算出。

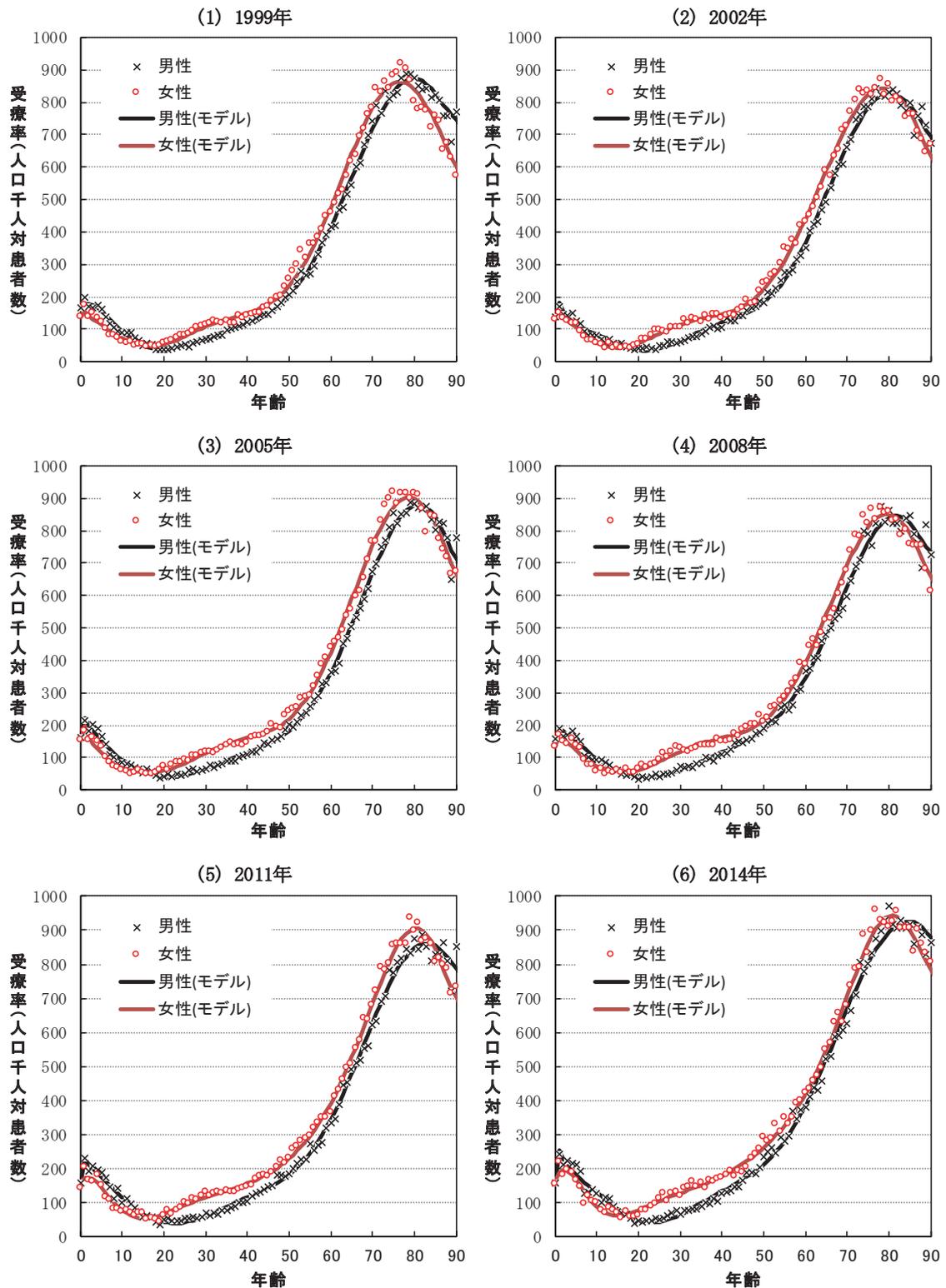
参考図 1. 男女・年齢別受療率の数値モデルならびに観察値：総数（入院＋外来）



参考図 2. 男女・年齢別受療率の数値モデルならびに観察値：入院



参考図3. 男女・年齢別受療率の数値モデルならびに観察値：外来



[参考文献]

- Fries, James F. (1980) "Aging, Natural Death, and the Compression of Morbidity", *New England Journal of Medicine*, Vol. 303, pp.130-135.
- Sullivan, D.F. (1971) "A single index of mortality and morbidity", *HSMHA Health Reports*, Vol. 86, No. 4, pp.347-354.
- United Nations, (2016), *World Population Prospects: The 2015 Revision*, United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division.
- Wilmoth, John R. (1997) "In search of limits", in Kenneth W. Wachter and Caleb E. Finch (eds.) *Between Zeus and the Salmon*, National Academy Press: Washington, D.C. , pp.38-64.
- 小泉明 (1985) 「人口と寿命は何によって定まるか」小泉明 (編) 『人口と寿命』東京大学出版会, pp.1-33.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2012) 『日本の将来推計人口 (平成 24 年 1 月推計)』人口問題研究資料第 326 号, 国立社会保障・人口問題研究所.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2016) 『人口統計資料集 2016』人口問題研究資料第 334 号, 国立社会保障・人口問題研究所.
- 齋藤安彦 (2001) 「健康状態別余命の年次推移: 1992 年・1995 年・1998 年」『人口問題研究』Vol. 57, No. 4, pp.31-50.
- 鈴木隆雄 (2012) 『超高齢社会の基礎知識』講談社現代新書.
- 橋本修二 (編) (2012) 厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」(研究代表者 橋本修二).
- 別府志海 (2012) 「死亡力転換と長寿化のゆくえ」阿藤誠・佐藤龍三郎編『世界の人口開発問題』原書房, pp.175-205.
- 別府志海・高橋重郷 (2014) 「日本の傷病別平均受療期間の推定」『わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究 (第 3 報告)』(所内研究報告 第 46 号), 国立社会保障・人口問題研究所, pp. 35-62.
- 別府志海・高橋重郷 (2015a) 「疾病構造と平均健康期間・平均受療期間の人口学的分析—疾病構造別にみたライフスパン—」『人口問題研究』第 71 巻第 1 号, pp. 28-47.
- 別府志海・高橋重郷 (2015b) 「日本の傷病別平均受療期間の推定」『長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究 (平成 26~28 年度) (第 1 報告)』(所内研究報告 第 57 号), 国立社会保障・人口問題研究所, pp. 61-82.
- 堀内四郎 (2001) 「死亡パターンの歴史的変遷」『人口問題研究』第 57 巻第 4 号, pp.3-30.
- 山口扶弥・梯正之 (2001) 「高齢者の平均自立期間および要介護期間に関連する諸要因の分析」『人口問題研究』Vol. 57, No. 4, pp.51-67.